

五稜

昭和49年度 // 第14号 // 函館市立五稜中学校





誠實 協調 真理 探求

北海學堂書局

校歌

一、ひんがしに
古城いだきて

たたなわる

五稜が丘は

若人の

息吹に満ちぬ

水上に

ふるきをたずね

新しき

光に立ちて

大いなる

力伸ばさん

二、さくら花

友がきの

堅く結びて

うち鳴らす

自主の鐘の音

ひとすじに

まことを窮め

築きゆく

理想のすがた

ああ とわに
われら栄えあれ



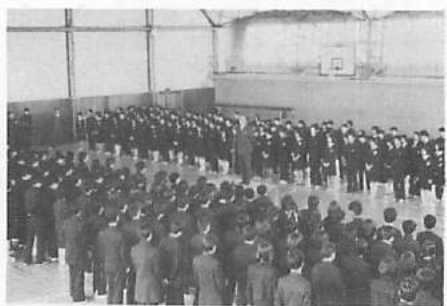
49年度 思い出のスナップ



良くぞ育ったわが娘



新任式…ヨロシク



出会い…港南中との交歓会



緊張の一瞬・対面式



街頭の食事マナーの勉強です

修
学



食べ方 ハジメー



イルカ？ イナイカ？

旅
行



心も燃える 火が燃える

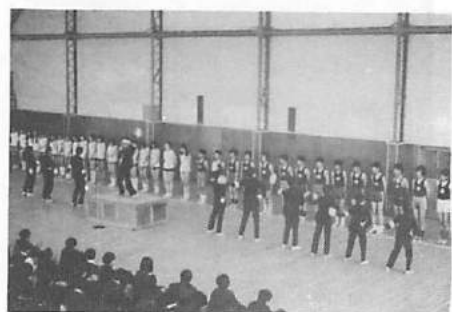
体 育 大 会



ドーンと行ってみよう



9番と2番…ハナの差



五稜— ファイト!



バーは落ちてますぞ



センセイ

中
体
連
は
じ
ま
る



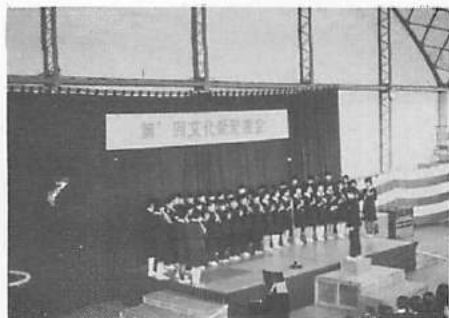
心臓破りのコーナー



キック寸前 カッコイイ



ホールさん、早く落ちていらっしゃい



合奏コンクール



交通戦争とのたたかい



のど自慢じゃありません

文
化
祭
ス
ナ
ッ
プ



みんな ウットリ



子連れカレー 3分間待って



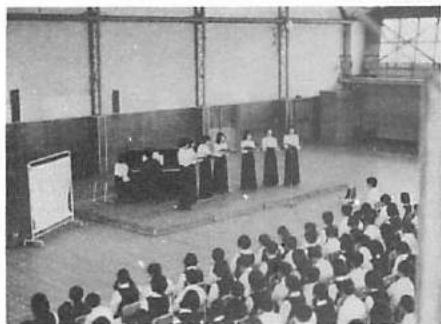
ドーナツって ドーナッてんの



こちらサテライトスタジオ



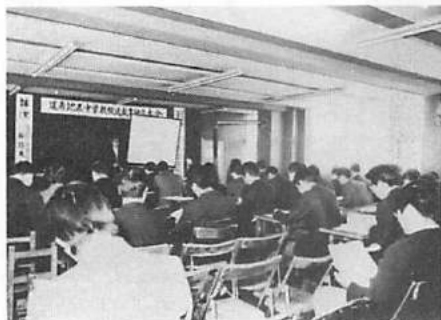
プロフィール



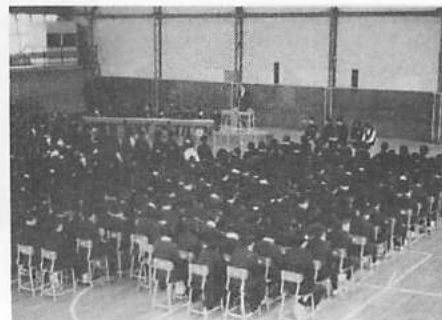
きれいねエ…ドレスが



教生先生、イラッシャイ



道南放送研



生徒総会です。そうかい





目次

校長のことば	1
生徒会長のことば	2
生徒会役員の任期をおえて	3
新役員の抱負	5
専門委員会をふりかえる	6
クラブ活動	9
学級プロフィール	16
座談会	26
文苑	31
修学旅行の思い出	42
はなむけのことば	46
卒業学級プロフィール	50
学校日誌から	60
受賞一覧	61
職員住所録	63
編集後記	64

集 中 力

学 校 長 金 沢 浩

学校を怠けて、虫や蛙を採ったり、いたずらをしたりして遅れて教室にもぐりこむことを、毎日繰り返しているフランス語は、その日に限ってあの嫌いなフランス語も、難しきばかりわからぬ歴史も、自分でも不思議なくらいよくわかった。けれども、それがアメル先生のフランス語による最後の授業であつた。

これは、アルフォンス・ドーデイの感動の名編「最後の授業」の話である。フランスの住んでいるアルサス・ローレンはドイツと国境を接している。だから戦争の結果によって、ドイツ領になつたりフランスにもどつたりしていた。この時もフランスが敗れて、ドイツに譲り渡されることになつた。占領したドイツ軍の兵隊が訓練している中で、フランス語による最後の授業が、ムツシュウ・アメルによつて行なわれたわけである。

遅れて教室に入ってきたフランス語を叱りもせず、アメル先生は言つた。「ベルリンからの命令で、明日からはフランス語は使えない。君たちにはドイツ語を教える新しい先生が来る。今日がフランス語の最後の授業となる。教室には村の役職にある人たちが来ている。アメル先生はフロックコートを着て、背ざめた顔で授業を始めた。フランスにはアメル先生がこんな背が高く見えたことがなかつた。そして、先生の説明が今までになくよく理解できた。やがて、教会の鐘が十二時を打った時、アメル先生はことばが口から出ないまま、黒板いっぱいにチョークで力の限り書いた。「フランス万歳」窓の下へドイツ兵の軍靴の音が近づいてくる。

あらましの引用が少々長くなつたが、話の状況をよく知つた上で考えてほしいからである。これは祖国愛・国語愛を悲壮なまでに訴えた感動的な作品である。だが、その点はさておいて、私はちよつと視点を變えてみた。フランス語がその日に限って、先生の説明が今までになくよく理解できたのはなぜかということである。君たちも考えてみてはどうだろう。腕白で勉強嫌いなフランス語でも周囲の緊迫した事情を察することができたらうし、アメル先生をこれほどまじまじと見つめたこともなかつたらう。彼の目を通してそれは語られている。彼の目も耳も、そして全身の神経が集中されている中で、フランス語の勉強がなされたのである。今までになく、こんなに勉強がよくわかつたことはないと彼自身が驚いているが、注意力の集中がもたらしたことである。

ものごとに対する注意力、ひとつのことに集中する力には個人差があるようだ。入学してすぐの小学校一年生に実験観察をしたことがあつたが、それがよくわかつた。生まれてから小学校入学までの間に、いろいろな環境や条件に左右されながら形成されてきたものであるだけに、考えさせられた。それはやがて、学習の成績にも影響が出てくることになる。中学生になつてゐる君たちの中にも、集中力に欠けて飽きっぽく、何をやっても終りまでやり通せない人がいると思ふ。

ひところ「念力」によつてスプーンを曲げたりすることなどが行なわれたが、事の真相はどうあれ、昔からすでに「思う念力岩をも通す」という格言もある。事をなすにあたつて、精神を集中してからななければいけないということとは大切なことなのである。卒業を前にして、その最後の授業で気がついたとしても、人生においては遅くはあるまい。少なくともフランス語はそうだっただろう。

生徒会

1974——1975



母校

生徒会々長 五木一成

打ち合わせのため下校が遅れ、人気がない暗い廊下を歩くとき、ふとこんなことを考える。「この学校はだれのためにあるのか？」と、つまらない愚問かも知れないが、これからの生徒会の主体となる一・二年の君たちに少し考えてもらいたい。

もちろん、現在こうして学校生活を営んでいる私たちのためにあることはまちがいない。しかし、それだけではない。私たちの学習の場、交流の場としての教室をとりあげてみても、過去に何千人もの生徒が過したところである。そして、これからも数知れない人たちの学ぶ場となるわけだ。つまり、「函館市立五稜中学校」というのは、私たちに与っては「学舎」であり、卒業生にとつては「母校」であり、また小学生にとつては「進学先」なのだ。そう、この学校は私たちだけではなく、数多くの人々のために存在していることを忘れてはならない。そういう何万人もの、五稜中生徒と名のることのできる人のうちの六〇〇名、それが現在の私たちである。

今年度の活動が、過去・未来のことを考えてひとつひとつ行なわれてきたとはいいたいが、今、はつきりと世代の交代が行なわれる時期に、生徒会の縦のつながりを考えることも意義深いものと思う。これからの生徒会活動を積極的に進めたい。五稜の過去をもっと知ってもらいたい。「真理は先人の業績を受けつぐ伝統の中においてこそ発見し得るもの」ということが、物事のくりかえしでもあるこの活動に新しいものを見つけ出す近道になると思う。

今年度の活動には、完成品はなかったが、それだけにいろいろな方向へ道を開くことができた。留萌の港南中との交歓会も、これから続けていってほしいもののひとつに上げられる。

卒業する三年生にとって、五稜は常に母校である。君たちの活動に期待を寄せている。自己を高め、確かなものにしてもらいたい。それが五稜の成長であると思う。

昭和49年度 生徒会役員任期をおえて



副会長

中村 昌子



副会長

石後岡 正弘

私が生徒会役員になって、早くも一年が過ぎ、選挙演説やポスターはりをしたのが、つい昨日のような気がします。よく「生徒会と生徒の間には壁がある。溝がある」といわれますが、そんなことは決してないと思います。ただ、生徒の皆さんが無関心すぎるのではないでしょう。その良い例が投票箱だと思います。なんとかもっと皆さんに積極的になってほしい。意見を聞きたいと思い、ホコリをかぶっていた投票箱をひっぱり出し、設置したのです。それが、意見が入っている訳ではなく、いつの間にかゴミ箱になってしまいました。私たちは皆さんの意見を待っているのです。皆さんの一言が生徒会活動を向上させるのです。新生徒会の活躍に期待しています。

生徒会役員になって一年が過ぎました。会長はじめ、他の役員と協力して、いろいろなことしましたが、もう少しというところでできなかった問題もあり、残念でした。しかし、この一年で生徒会の裏の苦勞を勉強できたことは得がたい経験でした。最後に生徒の皆さんが、もう少し生徒会活動に関心をもってくれたらと願って反省いたします。



書記

古崎 毅

今年、ふたたび試みた投票箱は、結果的に埃をかぶらせただけに終った。ひとりの小さな意見でも入れてもらえれば、生徒会の運営に反映させることができるだろうと考え採用したのだ。しかし宣伝が足りなかったのと、投票箱に対する熱意の不足が、結局四、五枚の投票が



書記

杉野 奈津子

あったにとどまり、今ではゴミ箱代りに使われているありさまにしてしまった。着想としては決して悪くなかったと思う。そこで新役員に、投票箱による会の発展に、さらに努力するよう期待するしだいである。

今年の生徒会活動の中で最も印象に残ったものは何か？という問いに皆さんはどう答えるでしょうか。おそらく「別にこれといって、ないな」というのがほとんどではないかと思えます。たしかに今年の活動は地味であったような気がします。これといって大きな事や、かわった事をやったわけではないのですから。しかし、めだつたことばかりが生徒会活動ではありません。どんな小さなことでもみんな考えて、話しあい、そして確実に実行していくことがたいせつな生徒会活動なのではありませんか。それが、ほんの少しかも知れませんが、学校全体のためになっているのですから……。

生徒会役員の仕事をおえた今、このことを一番皆さんに理解してほしいのです。



会計

岸本 真

一年間の任期をおえて感じたことは、皆さんが生徒会活動にあまりにも無関心だということですね。つまり、生徒会役員が一生けんめいになっても、本命の生徒会々員である皆さんが応じてくれないのではどうしようもないのです。

もう一度、生徒会とその自分のいうものを考えてみてください。そして五稜中をよりすばらしい学校にしてください。五稜中を動かすエネルギーは役員ではないのです。皆さん自身なのですから。

最後にお世話いただいた先生がたにお礼をいわせていただきます。ありがとうございました。



会計

小林 雅恵

みなさん！忘れていませんか？あなたも、そして君も生徒会の一員だということとを。「一歩でも前に進んでやろう。」そう思って活動して来ました。しかしどれだけのことができたのかは疑問です。私は私なりに仕事に責任をもって来たつ

もりですが、反省すべき点が多々あったことが残念でなりません。投書箱、生徒会だよりなど、実行段階でつまづいてしまったのもそのひとつです。私達が役員になった時「今年こそ生徒会に関心をもってもらおう。」と言っていたのが頭に残っています。任期を終えた今、話し合いの重要さをしみじみ感じます。





新生徒会々長 石後岡 正弘

副会長 佐伯裕之

昨年度、副会長として生徒会運営にたずさわった経験を生かし、先輩達が残してくれた足跡をもとに生徒会発展のためにがんばりたいと思います。

そこでまず、本年度の課題のひとつに利己的な考えを排除し、生徒会活動への関心を高めることをあげたいのです。口でいうことは簡単ですが実際にはなかなか難しいことで、毎年毎年、その解決がなされずに終わっています。しかしこれを

しなくては生徒会活動は沈滞ムードをまぬがれません。力不足かも知れませんが役員一同少しでもこの課題解決へ近づこうがんばります。役員の努力もさることながら、生徒の皆さんの協力が何よりもたいせつなことはいままでもあります。学校生活をより明るく、楽しく、良いものとするために、生徒による生徒のための生徒会をつくりあげましょう。学級会活動、専門部会活動、クラブ活動などに積極的に参加し、討論し、実行する努力を続けようではありませんか。私は、皆さんの協力を期待し、先輩に負けないよう「誠実・協調・真理探究」を目標に前進したいと願っています。

私にとって中学校生活最後の年を迎えた今年、最上級生、生徒会役員としての自覚をもつて行動しなければ、と思っています。過去十三年間先輩が築きあげて来た伝統を土台にして、より良いものを、新しいものを積み上げていくために、皆さんと力をあわせて生徒会活動の推進に努力していきたいと思っています。

副会長 中村牧子

私はよく怠慢だといわれます。けれど気力と体力は何故かありあまっているともいわれます。その気力、体力を生徒会活動にじゅうぶん発揮したいと思っています。よく「生徒会と生徒の間に壁がある。」といわれますが、皆さんのほんの少しの気力と活気が集まればたやすく打破できるのです。そんな力はないという人は、生徒会室に来てみて下さい。きっと活気にあふれているはずですから……。

書記 岸田茂子

生徒会役員になって私が考える生徒会像は、五稜中学校の六百余人の生徒が、全員積極的に活動に参加し、役員と協力

していくものです。そして私自身も皆さんの役にたつよう努力し悔なき一年にしたいと思っています。

書記 熊谷 司

よく、生徒と生徒会の間には壁があるといわれますが、皆が生徒会をよく理解し、真剣に考え、多くの意見を出すことによってなくなることでしょう。私はそのためにがんばりたいと思います。皆さんの協力をお願いいたします。

会計 増田好美

五稜中学校の生徒全員が、満足した中学校生活をおくるということは非常に難しいことでしょう。でも、先輩達が残っていたことを土台にして、役員と会員の皆さんとが協力しあって努力すれば、あながち無理とばかりいえないはず、私は皆さんの協力を楽しみにしています。

会計 萬巻俊一

生徒会役員の先輩の話を聞くと、役員と生徒の間には溝があるといっていました。溝をなくするために、いくら役員だけががんばっても目的は果せません。両方から溝をうめる努力、即ち生徒の皆さんの積極的な生徒会活動への参加が必要なのです。協力をお願いいたします。

専門委員会

1974年度の

活動をふりかえって

◆代議員会

ふりかえってみると、残念ながらここに掲げるほどの成果はありませんでした。といって、なんの活動もしていなかったという訳ではありません。今年は「夏休み・冬休みの外出時の私服着用」「遊び物について」「女子ブラウスの色について」などについて改革しました。ただ学級での討論不足で、代議員会の決定がおくれるというまじさがありました。このほかにも革新的な意見も出されたのですが、多くは先生方に認められませんでした。これは先生方が生徒の自由を奪おうとしたのではなく、私たち生徒の方に責任があるのです。先生方としては「今あるきまりもろくに守られていないのに、認められないよ」というのが実のところと思われまふ。確かに働かずに報酬を要求するようなもので身勝手な事です。生徒が自由を要求するのは当然です。しかしその前提には、今あるルールをしっかりと守り、自分自身を自己の力で律することができ、正しい判断ができるといふことが必要なのです。来年は、代議員会が良い意味での革新的な機関決定をないうるよう、学級での指導に、討論に、活躍することを望みます。

◆生活委員会

今年の委員活動は積極性に欠けていました。委員会には、先生がたの協力で、全員出席しますが、ただ席をあたために來る人が大部分です。た達自身の手で学校生活を正しく楽しくして行こうという真剣さが見られず残念です。委員会ですらこうですから、ふだんの活動にいたっては尚更です。朝玄閣に2・3人が肩を寄せあつてだまつて立っているだけという状態、これでは学校生活はよくありません。後輩の皆さん、この失敗をくりかえすことなく、委員会をたいせつにし、積極的かつ真剣に意見をたたかわせ、毎日の委員活動を実践しながら、新しい生徒会のきまりを生みだしていくようがんばって下さい。期待しています。

◆学習委員会

今年の学習委員会は、消極的でやる気がなかったため、極めて単調な活動でした。委員会があるのも、終りなく出席しまた、出たとしても、終わりの合図を心待ちにしている人が、多かったようです。ですから、委員会が形式的なものになりさっぱり、活発な活動ができなかったと

思います。

そこで、これからは、活動に対してもっと積極的になつてほしいと思うのです。むろん、それですべてが解決するとは言えませんが、幾らかは向上するはずですよ。そして、その「幾らか」を積み重ねてよりよい活発な委員会を築きあげましょう。

◆図書委員会

一年間、図書館の仕事をして気付いたことは、やはり図書の貸し出し量の低下です。特に貸し出し量の統計では、二年生が意外な結果を出しました。

この原因は、中学校の勉強における要点が、暗記やいろいろな問題を知ることに変つてきているからでしょうか。

私たちは、「よりよく。」ということをお願いし、生徒間に本を広め、その環境も委員会などで考えてきたつもりですが、貸し出し率は、決して「良い結果」といえませんでした。

しかし、「よりよく。」のことを忘れずに、これからもがんばろうと思います。そして、皆さんも「読書」についていろいろと考えてみて下さい。

◆文化委員会

文化委員のおもな仕事としては、文化祭、夏休み冬休みの展示掲示物の美化というようなことです。

今まで文化委員としてやってきて、反省しなければならぬことは、みんなから注目されるようなことを何もしなかったということです。文化祭にしても、この三年間同じことばかりやってきましたし、また休み中の作品などにしても、ただ展示したり、賞をきめるという、単純なことばかりでした。だからといって、これからどうすると問われても答えられません。とにかく僕達文化委員は、今までとちがった文化活動を、したいのです。お互い協力して、よりよいものにしていきたいと思います。

◆整美委員会

後期整美委員会の活動は、目標を「校内美化に努めよう」とし、「ストロブがつくと校内がよくなる」というシンクスを破るため、消掃点検という具体的な活動一点に絞って行動して来ましたが。しかし、予定の半分も成果があらがらずに終りそうです。なぜなのでしょう？ それはトイレや水飲み場がつまつてしまふ例で

◆保健体育委員会

わかるように、全校生徒が、公共物をたいてつにしようという意識が低く、誰かがいたずらしても、他人ごとで自分に関係がないという身勝手と、美化意識を全く持たないという一言につきるといっていいと思います。生徒ひとりひとりが、もっと公共物をたいせつにし、より住み良い環境で学ぼうとする真剣さをほしいのです。皆でよさぬ注意、こわさぬ注意をしあい、ひとりが一つの紙くずを拾うことからもう一度やり直してみようではありませんか。

保健体育の仕事は、あまりないよう意外とあるものです。たとえば授業はもちろん体育大会、水泳大会、球技大会、遠足……。それと保健の仕事などがあります。大部分は前期の仕事で委員会活動は活発にできたと思います。しかし後期はあまり活動でできませんでした。また保健の面に関しても、ぜんぜんと言っていいほどなにもしてないように思われました。……つくづく反省しています。さて、私たちから見たみなさんは……協力性がかけているように感じられます。(授業の時は委員中心に楽しくやりたいものです)

後輩のみなさん、今後「全校生徒が心

身ともに健康で、安全な学校生活を」ということを最大の目標にして、すばらしい保健体育委員会にしてもらいたいと思います。

◆厚生委員会

学校給食が実施されて二年、厚生委員の活動もより活発になり、手洗い場の石けんの取りかえ、補充、エプロン、帽子の回収、配布、給食当番の指導などのほか、今年はパン・牛乳の残量調査など仕事の内容も充実してきました。

しかし残念なこともありました。それは委員会における委員の集まりの悪いことや、皆さんの協力が少なかったことです。ですから仕事が多かくなかなかどりません。来年はぜひこの障害を克服して、より充実した委員会活動を展開して下さい。期待しています。

◆ベルマーク委員会

発足まもない委員会です。活動は卒直にいつてじゅうぶんではありませんでした。私たちに一生懸命仕事をして来ましたが、ふりかえってみると委員の集まりが悪いこと、意見が出ないこと、ベルマークの集め方が不十分であったことが反省されます。私達の力で、学校備品

のひとつをと欲張らずにがんばったのですが……。私たちの仕事は大変根気のいる仕事です。どうか委員の苦労を理解し協力して下さい。来年こそ品物を手にするようにベルマークを集めて下さい。最後に来年度の委員の皆さん、おつくうがらずに委員会に参加して下さい。

◆放送局

八時二十分の子鈴と共に、放送局の活動が始まる。文化祭で、行なわれているサテライトスタジオは、第十回文化祭から協賛されたもので、「魅惑のリズム」「思い出」から始まり、今では「DJ」「リクエストジョッキー」と内容も豊富になりました。初めて担当した座談会など数多くの思い出があります。

今の放送は、ほとんど二年生で行なわれています。彼らなりにがんばっている姿を見て、一步、一步、前進してほしいと思います。

◆応援団

今年の五稜の応援は、他校にくらべて大変貧弱でした。その理由としては、応援団の練習不足、五稜の生徒が応援の際にあまり声を出さないこと、それに応援団員の不足も、その理由の一つになるでしょう。

今までのように、生活委員の男子が応援団を結成するのではなく、クラスから二人くらい選出し委員活動のような形で応援団を結成するようにすると、練習不足や人数不足を補うことができるでしょう。しかし、声を出すようにするには皆さんの協力が必要です。選手を応援するのはみなさんです。皆さんが声を出し、拍手すれば、市内のどの中学校よりもずっとすばらしい応援となるでしょう。今はただ、新しい、応援団の結成と、皆さんの協力を望むだけです。



クラブ活動

——青春——

若者は今
希望を胸に 活気にあふれている
ひとすじに光る
青春の輝きを求めて

若者は今
明日に向かって
確実に一步一步 あゆんでいる
やがて思い出となる
努力の結晶を求めて

ひとりひとりが小さな手をとって
小さな目的に
友情の輪を広げてゆく

若者は今
希望を胸に 活気にあふれている
ひとすじに光る
青春の輝きを求めて



野 球 部

今年の「五稜」には「私達が練習を始めたのは、そう冬の跡も消えたばかりの春休みからである」とありました。今年度、本格的な練習に入ったのは五月の声を聞いたころでした。体力づくりも割愛しました。髪も切りませんでした。結果は……当然です。風雨荒れる球場を去る我々は無念さに口数も少なでした。選手

「人事を尽くして天命を待つ」という格言があります。正にその通りです。今年には雨が多かったので人事の尽くしようがなかった。などというところ、金道大会出場の後輩諸君に倒されそうです。先輩諸君！新人戦に優勝と、幸先の良いスタートを切れました。そのことで慢心している様子もないようですが、更に青春に悔を残さぬよう、栄光を目指して練習に汗を流して下さい。

蹴 球 部

サッカーとはボールをけり、そのボールをゴールへ入れればよいのである。しかし、そうするまでには目に見えない努力と技、そして何よりもチームワークが必要である。世界的に有名な西ドイツチームの選手にベッケンバウアーという人がいるが、彼はボールひとつに生命をかけている。（我々はボールひとつに生命をかけて、ふりまわされてきた）そして彼はサッカーの皇帝といわれチームの中でも、リベロ（liberty・自由）の存在でありながら、常に努力し練習を積み重ね、チームの一員としての責任を果たしている。後輩の部員諸君、サッカーの皇帝を見なさい、シーズンオフ中からからだづくり、体力増強と今まで以上に練習をつみ重ね、努力してほしいと願っています。

わがサッカー部は永遠に不滅である。



排 球 部

三年間のクラブ活動をふりかえってみると感慨一しおのものがあります。今年は、男子●新人戦三位・中体連ベスト8・女子●中体連ベスト8でした。これはたいへん不満な成績ですが原因は私たちが自身にあるのです。それは、練習量が少ない上に真剣さに欠けていたこと、試合の時粘りがなく、基礎がしっかりし



ていないことなどです。後輩にバトンタッチをした今、私たちが後悔していることは「勝てなかった」ことと、レギュラー以外の人たちが思いっきりクラブ活動ができない状態にあったことです。勝った負けたと騒いでいる私たちの影になって、支えてくれた後輩の皆さんや先生に三年の部員一同(⊕中村さん)心からお礼を申し上げ、来年の健闘を祈るものです。

籠球部



籠球部は五稜中創立以来の伝統あるクラブですが、残念ながら今だに入賞したことがないのです。他のクラブに比べて恥ずかしい成績ですが、それだけに今後の成長が楽しみだとも思います。がどうでしょう。さて今年の中体連では……。

第一試合桐花に負け、続く敗者復活戦では銭亀沢中をうち破り、選手一同、次もいまだこの意気込みでチーム一体となつて松川中と対戦しましたが惜敗してしまいました。「また敗けたのか」「どうしようもないな」といったような言葉が聞こえて来ました。たしかにどうしようもないかもしれませんが、私たちは私たちに努力し、トレーニングシャツをしぼると汗が流れ出るくらい練習をしたのです。(にわか練習だったかな?) 結

果がどうあろうと、皆悔はないと私は思います。後輩の皆さん、来年は入賞の宿願を果し、新しい歴史の一頁をつくるように練習に練習を重ねて下さい。しやにむにがんばって下さい。

庭球部



中体連優勝の先輩と比較して、今年の私達の成績は、各種大会ともに、ほぼ沈黙というところでした。しかし、これには理由があるのです。その第一は、先輩

達が強くなろうと練習を時間も空間も独占し、私達が満足な練習ができるようになったのがおそかったことです。練習不足はスポーツマンにとって最大の欠点なのです。第二は責任感がなく、チームワークに欠けていたことです。第三は冬になると部が自然消滅してしまうことです。冬の体力づくりは重要です。ですからこれからの後輩の皆さんに望みたいことは、第一に自分達の力の向上も良いけれど、後輩への指導がそれ以上にたいせつであること、第二にミーティングを多く持つて連帯感を強めること、最後に、冬は、雪の上でもどこでも集まって精神力を養い体力づくりをせよということ。そうすれば必ず再び優勝の栄冠に輝くことでしょう。おわりになりましたが、お世話いただいた先生方、ありがとうございました。

卓球部

今年の戦績は良くありませんでした。中体連でも、新人戦でも、チームワークはバツグンだったのですが、力がかともなわなかったのです。冬は手がかじかみ、夏は暑さにバテながらも、一生懸命練習した苦なのに、結果は全敗に近い有様。練習の仕方に関係があったのかも知れません。来年度は、その点の研究もし、無



駄のない効果的な練習と、もち前のフアイトをじゅうぶん発揮し、優勝の栄冠をかちとって下さい。卓球部はめだたないクラブ、華やかさは全くありません。私達は埃のかぶった卓球台が好きです。私負けても負けてもプレーすることが好きです。部員ははじめ六十名以上いました。が、今はその半分もいないのです。皆、あきたり、練習の苦しさにやめていくようです。でもそれをのり越えてこそ、本当の卓球のおもしろさがわかり、ピンポンから卓球へと変えるのです。勝つには練

体操部

習あるのみです。苦しさに負けず、のりこえる努力を期待しています。

五稜中で一番人数の少ないクラブ、それが体操部。一年から三年まで、女子はたつたの六名、男子は入部数は多かったのですが、練習に来る顔ぶれはきまつた四、五名。でも人数など問題ではないのです。事実体操部ほど輝かしい伝統をもつクラブはありません。女子では、今まで一度四位でしたが、ほかは全部優勝か準優勝です。今年は僅差で準優勝でした。個人では全道大会まで駒を進めるという成績で、今年の中体連でひとりわが部が栄光をかちとつたのです。この伝統の陰には、顧問の先生のきびしい指導、そしてそれに負けずについて行った先輩のためまぬ努力があるのです。後輩の皆さん、この輝かしい伝統をより一層高めよう、一日一日の練習をたいせつにして頑張ってください。



水泳部

今年の男子水泳部の成績は、残念ながら決して良いとはいえないものでした。放送水泳大会・三位、中体連・三位、昨年は両方とも優勝でしたから、たとえば入賞でも満足とはいえないのです。これは主力選手が卒業又は転校で抜けたこともありすが、やはり部長の指導力が弱かったことと、練習量の少なさが原因だったと思います。それに比べ女子水泳部は、放送水泳大会・三位、中体連・三位と、それぞれ昨年度の成績を上回る成果をあげました。

水泳部はなかなかつらいクラブです。それだけに入賞の喜びはひとしおです。もちろん勝つことだけがすべてではありませんが、来年も全力を尽してがんばってほしいと思います。

理科部

自然というものが、すばらしいの発展の中でむしばまれつつある現在、私たちはそれととりもどすために何ができるだろうか。まして三年間のあわたたしい中学校生活の中で——。私たち理科部も、何もできないうちにこの一年を費やしてしまつた。そこで後輩の部員に望

みたい。自然がどんなにたいせつなものをよく吟味してほしい。そして理科部がひとつになって打ちこめる何かをみつめてほしいと思う。大きな前進は望まない。ほんの少しの前進でいいのである。



読書部

今年の読書部員のブックカードを見ると、読んでいる人と、読んでいない人との差が大変大きいことに気がつきます。愛読者は、部員唯一の特権をフルに活用

して、いまことに結構なことです。一方では、はいつていて、はいつていないのと同じ人。が、いるのには大変残念です。本堂先生も読まぬ人には悩んでおります。これから読書部にはいろいろとして、あなた、また、現役のあなた、図書館の本を全部読む意気込みで活動しようではありませんか。そしてより楽しく、充実した読書部をつくりましょう。

文芸部

「文芸部」……この部ほど、活動がしにくく中学生にとつて魅力のない部はない……と私は友人に言われたことがある。たしかにそういう面もある。しかし課外クラブの中の文芸部は、創作の好きな者が集まって作られたものであり、はでな活動はしなかったが、それぞれ地味で大切なものをつかまえてきた。

その一つが三年副部長池田まささんの修学旅行中の珠玉のような詩であった。ただ部員わずか六名……これは五稜中文芸部として大変なことである。

来年は新一年の参加を、現二年の部員はつとめて、魅力ある活動の幅をもっと広げてほしい。

家庭科クラブ

私たちのクラブは、毎年のように、人数が少なく、運動クラブに比べると、活動もめだちません。けれども、こんなクラブでもそれなりにがんばって来たつもりです。

文化祭では、協力しあって、みんなが一生懸命つくって来た作品を展示しました。また、レースでバックを作ったり、



染め物をしたりしました。

でも残念なこともありました。夏ごろから楽しみにしていた機械編みができなかったことです。それに小人数のクラブであることがちよつと淋しい感じでした。でもとても楽しいクラブだったと、今思うのです。来年は更に良い家庭科クラブになることを期待しています。

美術部

人間が生まれつきそなえている本能の一つに「美を愛する心」というものがあります。だれだって美しいものを目にしたら心をうたれることでしょう。このように美に対する感覚は皆がもっているもので、美術家たちは、凡人よりも、少しすぐれているにしかすぎないのです。みなさんも知っている、レオナルド「ダヴィンチ」彼の絵画は、人間の深い心のもつた作品といわれ、色彩のほかしく遠近法を使った精密な描写をしました。「万能人」とまで言われるのでしよう。さあ、今、私たちも彼といっしょに「美」を追求していこうではありませんか。

音楽部

「どうだった？」

「4位！」

これがコンクール後の私達部員の合言葉。実をいうと、入賞を発表するのは3位まで……。そうとは知らず

「そうお？おしかったのね」

なんて人に言われて、それでも心の痛みも感じないで、

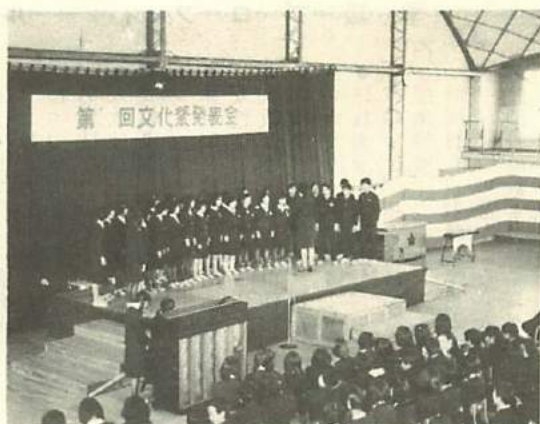
「ウン、ホーント！ちよつと調子悪くってサ」

なんて、ツラッとしてるのが、我音楽部員諸君。（もつとも、私が第一人者ですが……）でも本当は入賞なんて目じゃないのです。歌の好きな仲間が集まって、音楽室を奇声でいっぱいにするこ



とが、私たちの生きがいったのですから……。

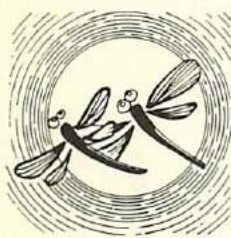
後輩さんたち!!
君たちもマイベースで、GO!!



アマチュア無線同好会

J A 8 Y R C

ラジオの短波を聞くとか何が聞こえるでしょう? 電波が飛びかう中の7メガヘルツ付近を聞いてみれば: モガモガモガ: そう。これがアマチュア無線です。さて……。五稜中生徒のアマチュア無線活動は、48年度に、かの有名なJ A 8 S 5 X (今はいせん) が来てから、にわかに活発になり、その年の文化祭でアマチュア無線の初公開をするに至りました。しかし結果は準備が足りなくて失敗でした。年が明けて49年度、私たちにJ A 8 Y R C というクラブコールがおりました。そして文化祭では発表を認められ、不十分ではありましたが、一応成果をあげることができました。正式なクラブではありませんが、なんとか正式クラブとして発足できるよう努力していきたいと思えます。電波をもっと身近かなものにするために――。



応 援 歌

作詩 成 田 淳 一 (48年3月卒)

作曲 土 橋 早知子 (48年3月卒)

ここにひかえしわが選手
他校に負けぬ栄光の
道をめざして今ゆかん
五稜が丘にわが母校

その名も知れた五稜郭
桜の花をしるしとし
その名も響かせ全国に
今こそゆかんわが母校

一年A組

一、先生について

●男子の意見——おっかなくて長所はない。

●女子の意見——ただ一言、アルファベットでH。

とは書いたものの、心の底では、良い先生だと思っているようです。(一部例外)

Hとは、おしりをさわったりということではありません。むっつり何とか……でもなく、ハンサムの頭文字？

二、男生徒について

●人数は二十三名+(中性)一名=二十四名。

●成績優秀、スポーツ万能(例外二十四名)……ウソ。

●レディファーストで、とてもやさしく、おもしろい。

●体育祭、球技大会、水泳大会、ともに成績上位です。

三、女性徒について

●人数は十七名+(中性)一名=十八名。

●成績優秀、スポーツ万能(例外ナシ)

●いきがり、H(スカートめくり)でも、親切で美女。

●球技大会、水泳大会、男女共の文化祭合奏コンクールは成績上位、体育祭はおしくも最下位でした。

●授業態度について(ある日の情景)

一時間目(自習時間)男女共に遊ぶ。注意しても、ぜったい静かにならない。

二時間目(数学)いくらたっても先生が来ない(やはりコンパスのせい)。これといった何の授業？

三時間目(英語)この時間になるとあきが来るが、この日は「恐怖の……レコーダー」が待っているの

胸がいっぱい。

四時間目(社会)「社会の窓」に注目の時間、だれ一人と

昼食時間

して目をふせる人はいない(とくに女子)
おかわりをする人が、だいたい一定の男子。
(ふだんの生活がにじみ出ている?)

五時間目(科学)一番前のY君はいつも実験台(一番前ってやーねーエ おーコワイ)

六時間目(音楽)男子の低音、女子の高音の得意の美声で先生も耳鼻科へ行くとか?

こんな生活をしている我々ですが、どの先生からも、非常に良いと、おほめのことばをいただくしだいでございます。ハイ。(うわさによると、先生方はどの学級も、同じようにほめるとか!?)

それでは、最後にわがクラスの某男子にインタビューをしてみようネ。

学校へ来て一番楽しいことは何ですか?
○勉強することです。(本当かしら?)

一年A組についてどう思いますか?
○いいクラスですが、男子の足の短かさと、女子の胸の長さだけが気がかりです。

好きなテレビ番組は?
○「カリメロ」と「ママと遊ぼうピンボンパン」です。

あなたの趣味は?
○ピンボンパン体操をすることです。

北方と沖繩、どちらが広いと思いますか?
○それは当然、東京の方でしょうね。(ピンボケ)

最後にひとこと
私がいる限り、一年A組は不滅です!

(ゴメンネ……長嶋さん)

以上が一年A組でした。何か、ご質問はございませんか?なければ、これでおわらしていただきます。

一同 礼。

一Bプロフィール

私達のクラスは、とても明るくて先生からも、にぎやかすぎると注意されるほどです。また、学力はほかの学級よりも少し劣るようですが、明るいということは良いことだと思っ
ています。でも、私達のクラスでも、たまには良い成績をと
るんですよ。例えば……あれは忘れもしない六月十日のこと
です。何の日かわかりますか？そうです、体育大会の日です。
悪戦苦斗の末、私達一年B組は、みごとに第一位に入賞しま
した。私達は、発表された時は、とび上って喜びました。そ
して九月五日水泳大会では、三位に入賞しました。

どちらの賞状をいただいた時も、私達は、何ともいえない
希望に満ちた満足感を覚えました。

次に、私たちのクラスについて、いろいろと説明しまし
う。……とはいったものの、今までそんなことを一度も考
えてみたこともないので、ちょっと困ります。それでも、私
が感じたすべてのことを、書きます。私達のクラスは、男子
二十一名女子十九名の計四十名の一団体です。嬉しい時はと
もに喜び、苦しい時はともに苦しんで来しました。私達は担任
の米田先生に必らず一週間に三回か四回は叱られています。
内容はいつもきまっています。

「うるさいぞ、何度いわれたらわかるんだ」

と、こんな感じで、帰りの学活には、いつも叱られます。で
も、私達生徒のことをいつも心配してくれているようです。
この前の学活の時間のことでした。あと少して試験だったの
で、先生からその話を聞いていたら、あまった時間をさい
て、体育館で、思いきり遊ばせて下さいました。みんな試験
勉強で、体がなまっていたのでしょう。皆、いっせいに体育
館に出て、走り出しました。私達は、とても喜んで、「いい

先生だな」と思いました。
では、かわってわが一年B組の長所と短所を紹介しまし
う。

はじめに長所――。

そもそもB組は、活発すぎて活発すぎて、活発すぎるク
ラスであろう。まず、この活発さは、休み時間になると、す
ぐわかると思います。（みなさん。B組へどうぞ来て下さい。
ただし、入場料金は百円です。）また、授業中も活発です。と
いいたいんですが、そうではないのです。（これ短所かな）
でも、授業をまじめに聞いているのは、たぶん多くはないと
思うが、まじめでないというのも少ないと思います。でも学
力は全国第一位。……となりた。

まだまだ長所があるのである。いくら書いても、長所だ
らけのB組なので（というけれど、どうかな？）もうこのへ
んで長所のこととはやめておきましょう。

次に短所――。

そもそも（また同じ出だし）このB組は、短所の少ないの
が長所である。

でも、その中から選り出せば、学活の時間や授業はしまり
のベルがなつてもすぐわからないということ。でも、
「ガラッ」となると、ドタドタドタドタ。ワイワイ、ギャー

ギーッ……シーンとなるのである。
あとは何も無いことになっておきましょう。



『一C館の日記』

(影の声) 「あつ、ねえ君、中央階段のとなりのクラスは何組だったか知ってる？」

(一C一同) 「そりやあ君、一年C組だよ！」

(影の声) 「あつそうか。もういいよ。ありがとう。」

(一C一同) 「まってくれ、「一C館の日記」を聞いていかないか、今、始めるんだ」

(影の声) 「おもしろそうだね。それでは願います。」

(一C一同) 「読者のみなさん、ごゆっくりどうぞ」

(読者) 「はい」？ (あつ、飛び入りでした)

で、まず構成は次のとおり。一C館人員↓41名(男子23女子19) 十太平元昭教諭 総勢42名。まあ、いちおう、スポーツ万能で優秀な男子と美しく、優しい女子(に近いのです)のクラスなのです。

では次に、一Cの特徴などを日記から見てみよう。

○月○日朝

男子はストープのそばで楽しむ。女子はといえば、点々として群がっているのです。やがて、議長の清らかな号令により全員着席(に、なかなかない)

○月○日一時間目—学活

一C館はさるの集団に変身します。(見ざる、聞かざる、言わざる) 一週間の中で、一番静かな時間？

○月○日二時間目—英語

みんな大好きなENGLISHの時間(かな?) 一C館は非常に楽しんで授業を受けます。しかしノ恐ふのテブレコーダーから声が聞こえてくると、たちまち静かになり、熱心に(?) 聞き入ります。

○月○日三時間目—国語

一C館は北極海のように静か。その中に○○先生の声が、鋭く響く。すべての瞳がらんと輝く時。

○月○日給食時間

まちにまったこの時間、一C館はかるやかな笑い声でいっぱいになります。ただし、調子にのりすぎて、先生のげんこに会う者もあり。貧しい者が目立つ時でもある。(食べっぷりがすごい。特に一C館ただ一人の百姓?のS君)

○月○日五時間目—体育

とにかく大ハッスル! 難しい問題で大いにひねられた頭が、スカットします。(影から質問 一C館に体育になるとはりきる人は何人?) 全員、そうですが、ハリキリボーイが一人います。

○月○日六時間目—自習

一C館が戦場と化します。ヒューツと風きる消しゴムのかす(ギョツ) 激しい銃声(発声練習)、しかし女子は意外に静か……と思ったら腕ずもうをやっていました。

○月○日放課後

たいてい女子が数人残っている。(何のためか?)

そして、一C館の先生といえば、めがねをかけた、胴長の先生で、スキーがとてもしょうずで明るくほがらかで、生徒思いの先生です。

そして一C館は「良い子がそろった良いクラス」で、やがてみんな、二年生になります。一C館の歴史をつづられるのもあと一カ月ちょっとです。

(議長) 「さあみんな、一C館の歌を唱って読者のみなさんとお別れしよう」

(一同) 「ララララー、ランランラン! ……」

(影から) 「一C館のみなさんは、いつまでも歌い続けます。そして、やがて春がやってきます」

一年D組

一年D組。本当にうるさい学級である。みんながみんな、自分の特技をおおいに発揮するからであらう。

まあ、始めに比べたら、だいぶよくなったようであるが、自習時間などは「変化なし」といったところである。

授業中のようなすは前にいった通りであるから「勉強もよくできる」とは、いかないのである。担任の先生（林先生）の苦勞がよくわかる。しかし、その先生の努力が結ばれてか、だんだんよい方向に向かっていっているようである。これはまことに喜ばしいことではないだろうか。

D組が静かにしている授業時間。そのような時間は、まことに貴重なものである。それらが、何の時間かと言うと、国語・習字の時間なのだ。国語は、島貫先生がいらつしやる。いつもは、はしやぎ回っている生徒達も生つばを飲む思いで静かにする。全教科が国語の時間のようなならば、議長をはじめ他の委員が苦勞せずにすむのに……

とにかく一年D組とは、今まで書いた通り、うるさい学級であるが、よい点がないでもない。ユーモアがあることである。その数少ないよい点は、明るく、ユーモアがあることである。

あまりユーモアがありすぎて、立たせられる人間も出てくるが、よい点には、変わりないだろう。

また、自分の考えを押し通す。これも、完全によいとは言えないまでも、なかなかの特性ではないだろうか。

特に学活の時間は、このような特性を、発揮しすぎるのである。

その他で、よい点といったら、授業熱心なことだろう。（体育の時間だけ）

今、これを読んでいるみなさんは、この雑な文章では一年D組の姿を、はつきりと、捕えることは、できないと思う。一応まとめると、次の通りである。……「明るく、ユーモアがありすぎて、とてもうるさい。しかし、勉強の面でも、態度の面でも、だんだんと向上しつつある。」

二年生も、もう目の前だ。クラス全体が、ガッチリと団結して、少しでも二年生らしい、りっぱなクラスにして行きたいものだ。



一年E組について

ジリ——と八時三十分のベルの音。

早く来る人も、ベルの音と同時に来る人も、ストーブのそばにいた人も、みんなマッハの速さで席に着く。

これからばくたち、一年E組のH・Rがはじまる。

「静かに！」日直の音が、かれはしないかと思うほど注意しやうと静かになる。

ぼくが転校してきたのが五月……………。

それから十カ月たった今、みんなのメッキもすっかりはげ落ちるさいの、うるさくないの。

ぼくたちE組は、班を作り学習している。

当然短所、長所がでてくるが、前までは、短所だけが目立った。

今はみんなで罰などを決めて長所も増えてきたと思われる。

しかし、一部の教科では、列になってすわっている先生の話しによると、二学期の中ごろから成績下りきみ……………。

（ガンバラなくちやとみんなの声）

国語の時間は、みんな「恐怖の国語の時間」と言っておびえてまっさおな顔をしている人もいれば、あまりの恐怖に、チビタ人もいるとか？

この授業と習字の授業は、みんなも静か、特に習字の時間は先生の足音が近づいてくると今までうるさかったのがしいん。

休み時間は？

という、何となく男子は、ストーブのまわりに集まっていたにやらのからぬ話をしてるようです。

女子といえば、仲の良い人たちで、いくつものグループを作って井戸ばた会議に無中のようです。

話の内容の一部を言うと、人のあだな、など言いあって「おい目なし」、「何んだタネキ」こんなようす。
こんなことを言いあって、たまにはケンカをして教室をウルトラマンよりも速く走りまわっている。

また、勉強しているまじめな生徒もいると思ったら宿題を忘れていっしょうけんめいやってたりして、まあこのようにみんなさまざま。

四時間目を終わると、みんな待望の給食。

It's hungry. とばかり食べる。

しかし、こんなE組でもスポーツだけは学年の中でトップ。体育大会、球技大会、水泳大会では、一位、二位しかとったことがない。

教室には、賞状ずらり。（女子はまるでだめ。）

この成績は、スポーツだけでなく文化祭の合奏コンクールでも二位である。

話は、かわり我が組の先生を紹介します。

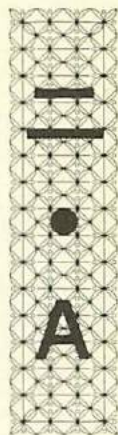
担任は、村田先生です。村田先生は、音楽の先生です。この村田先生は、授業には、テキパキとしてわりときびしいほうです。

この間、宿題忘れて、ぼくを含めなんと十数名が床に正座させられ、足がしびれて、はって教室へ帰った人もいたとか、でもふだんは、わりとユーモアもあり、おっちょこちょいの点もあります。

クラスの人気は男子23名女子17名です。（みんな美男？美女？です）

授業のようすは、教科によりみんなの態度が、ガラリと変化。今まで書いたとおり、決してりっぱなクラスでは、ないけどあと2カ月でわかれると思うときびしく不安な気持ちです。

これで一年E組の紹介は終わります。



二年A組からの一言

●ふり返れば中学校生活二年間、体力の限界を感じ春休みに入ります。

しかし、二年A組は永遠に不滅です。

●アヒルのジョナサンがいるクラス

●黒人奴隷追放

●二年A組新番組IIのCMを集めた番組

(イレブン CM)

●七年殺しをやったからといって、パンチで歯を折るのはやめて下さい。(イキがりH君へTより)

●奇人変人がある組

(その代表的な例)

○恐怖の土人督 (M・S)

○恐怖のエラハリ人間 (K・T)

○恐怖! 90°のつり目 (J・T)

○内股180°の恐怖! (K・S) できるものならやってみな!

な!

○顔も真ッ黒、手のひら真ッ黒、ついでにあそこも真ッ黒

②あそこⅡ足の裏 (H・S)

川原教諭の紹介

我々の調べたところによると、昭和○年○月○日生まれと推定され、札幌師範学校を卒業以来、函館の中学校を四校点々とし、そして、五稜中学校二年A組に居すわっ

ているのである。
好きな物は納豆・人参・ねぎとボクシングの輪島である。
受け持ちの科目は、国語と音楽であるが我々は国語だけである。(ああ、よかった)

言語障害集

○ヤチカ(ヤシカのこと)

○口まがんねん(口まわらないのこと)

○月ローードショー(月曜ロードショーのこと)

○コーヒーション(コーヒーションのこと)

これでわがクラスのプロフィールを終わります。

なおこのプロフィールは、自動的に消滅いたしませんので火をつけて燃して下さい。



2・B

2 B 男女

二年B組、それは美女&美男の集まりです…。
他のクラスの人もそう思うでしょう。

女子は大山空手をみっちりしこんだような礼儀作法。

男子 顔面まっ青。

他のクラスから賛成の声。

男子は全員、小笠原流などを少々。

女子あきれて声も出ない。

他のクラスからまた賛成の声。

男女共にスタイルばつぐん。

他のクラスあぜんとなる。

女子は、料理がとてもしようす。

男子「食べれるもんじゃないよ!」

男子は、スポーツ万能。

女子「見たことも聞いたこともない」

男子は、歩き方にもいつも気を配る。

女子は、いつも外またで大変です。

他のクラス「そうだ」

女子も、いつも歩き方に気を配る。

男子、いつものまたで大変です。

他のクラス「ほんとうに気を配りますね」

女子は、おちよば口の人がたくさんいます。

男子「何を言ってるんだ、

耳までさけているくせに……」

男子の目は青い海のようにです。

女子「まるでへドロの海みたい」

○他のクラスから、2 Bについて、意見を聞いてみました。

2 B の人はいつも静かですね。

一同 ニンヤリ。

2 B の人はいつも親切ですね。

一同 ニコニコちゃんになる。

2 B の教室はいつも清潔ですね。

一同 らく書きをかくす。

2 B 一同の意見。

みんな、いつもスマイルを忘れません。そして、みんな協調性に富んでいます。この二つだけは本当です。信じてください。お願いします。

2 B は、自分達の長所を生かして、今日も頑張っています。

応援してくださいね。

他のクラスのみなさん

ご協力ありがとうございました。

ここにあげた内容は、当局はいつさい関知しませんので、そのつもりで……。

今年一年の大会成績

● 体育大会

女子優勝 男子3位
女尊男卑 男子マケソ~~~~~

● 水泳大会

女子3位 総合3位 男子惜敗
馬が出ないため負けてしまった。

● 合唱コンクール

優秀 (2位)

● 球技大会

チームワークのよさが、ここで発揮
男子優勝 女子はおしくも完敗
実力の差が、ばつちり!

2年C組

現在、世界中にその名を響かせ、今日も尚、輝かしい活躍ぶりを見せつける世界最強を誇るチーム——
そう、それは我がクラスの事である。

女は全員たくましい。しかしちょっと例外がある。
ほれ、あの女、あの人のこと——Yさんのことさ。

男の方はさまざまである。念力だとか万力を持つ超能力者何のたくましい人。と、まーいろいろいるわけである。

あ！大事な人、忘れちゃいけないよ。ほれ、オールバックで絶壁で、顔を見るとすぐわかる。初めて見る人には刺激が強すぎるかもしれない。はつきり言う和我々の担任のジェンシー、年は何歳だかよく知らないが、みんなも先生の体に十分気をつけてほしいせいか「いいかげんにやすんだらいいのになー」期待は自習か？
なんて気づかう人さえる。(怪しい感じ)

英語の時間なんか他の先生にない何かを持っている。いったいなんだろう。(こんなのすぐわかるじやないの。バカバカしくてやっていられないよほんとに)

先生の事はこれくらいにしておいて、次に、我々がこの一年間いろいろとやってきた事に話しをかせよう。

あの、忘れることのできない革命問題。

あの時は、笑いたいのをがまんしてよくがんばったものだ。うわきによると三月革命も起こる気配。(ほんとかな？) なにやらいつぱいやってきたよ、うだけど、この一年、本当にやい気がする。みんなはいったい、自分達のクラスをどう考えているのか。そこで2年C組とはどうゆうクラスか？それぞれ2・C感を述べてもらうことにした。



井上貞興氏

この人物が
我々の担任
の井上先生

- あんまりイキガンナヨこら！
- このクラスにあの人さえないなかったらなあ。クソ！
- このクラスには、へんな顔の人がいる。
- 下手物の集まり。
- このクラスにはゴリラみたいな顔の女がいる。
- このクラスにはヤクザがいる。
- このクラスにはが骨がいてる。
- 面白い顔の人がたくさんいる学級。
- いじ悪な人がいっぱいいるクラス。
- このクラスには一種の妖怪らしき者がいる。
- 一番優秀な学級
- 野獣や怪獣のいるクラスである。
- このクラスにはねはける奴がいる。
- 2・Cとはバカタレの集団。
- このクラスはなにをやってもすぐれている。
- 顔のまずい人が集まったクラス。
- このクラスはとってもすばらしいと思う。

2ねんDぐみ



今は昔——そう、まだコスモスの花がゆれていた（なぜ春にコスモスなんぞ、咲いているのか？春なのにコスモスみたい〜〜／＼、何の話？）四月、わが2Dも、まだ、猫をかぶっている事を知っていて、静かにしていたものでした。地球は青かった！

あーそれなのに、それなのに……………。

まあ聞いて下さいな。

男子22名、女子18名総勢40名で構成されている2Dであります。勉強もスポーツも、特別でできるわけではないのに、休み時間のすばらしさと、給食時間の静けさ（？）といったら、どこのクラスにもおとらないのですよ。

その上、学習委員の「誠に残念ながら、只今の貴重な授業時間は、自習でございます！」この一言を聞くと、やつらのうるんだひとみは光を放ち体をこざさみに震わせ、満面にえみをたたえて、喜ぶのです。（ん、Youたちのクラスも同じ？）し・か・し

ただ1つだけ、こんなうちらを、緊張と、興奮と恐怖のうずきに巻きこんだのが、国語の時間なのであります。（先生、読んでますか？）

指名されるのを恐れおののきながら、〇〇〇の〇なんぞと相談しよーともせず、ひたすらえ続けているのです。心臓に悪いぞネエ〜〜／あーあ。

こーんなD組の授業時間といったら、先生もまけそーなほど静かでしら〜つとしているのです。先生が質問なすつても、ガゼン無視して、わかっていても答えない。何をしているかというと、トーゼン／ムフフ…あなたにならわかるでしょう？ある人は、そつと下じきに忍びこませておいた、〇〇さんの写真を見つめ、またある人は、通信さぼり講座をひらき、先生にめつかつたり、みーんな1人で楽しんでいるのです。なんなら、あなただけに、先生に見つからず、楽しめる、通信をさぼり講座のテキストを差し上げましょーか？

こんな悪徳にもめげず、ひたすらがんばっているD組より、みなさんへ——

日頃、テストで苦しんでいる我々のけーけんから——
——解答は、メモを見ながら正確に——

おそまつでした！！

P.S 先生ごめんなさい。先生のことば、書けなくなっていました。本当にすみません。



2年E組とは……

私、刑事ドラゴンコンボが紹介します。

我クラス2年E組は、なんといってもチームワーク・S・D・Y・F・R・I・E・N・D・S・H・I・P・この3つがたいへんよくとれているクラスです。

例えば、チームワークについて

●校内水泳大会

〔男子——準優勝〕

——総合2位

●校内球技大会

〔男子——準優勝〕

バレーボール

〔女子——〇〇位〕

●校内合唱コンクール——準々優勝などの成績です。

STUDYについては、いうまでもなく、VERY GOODというわけです。

2年E組は、楽しいことはもちろん、悲しいこと、苦しいことを、担任の佐々木先生とクラス全員が、あじわい、後のことを真剣に考え、対策を取るといふ様な感じのクラスです。ですから、クラスの中で、仲間はずれにされている人などは一人もいません。(ほんとうに!) しかし、このクラスの中には欠点と言うものがあるのです。それは何かというと授業中も、ちとうるさくなる時が、たまにあるのです。その問題を学活で話し合ってみたのですが、最後には、決まって「一人一人が自覚すること」となるのです。そしていよいよ自習時間になると、一時間前に決まったことが、なぜか守られていることがないのです。

この問題については、担任の佐々木先生もあきれかえっていることと存じます。しかし先生はうるさく「自習時間は静かにしていろ。一時間一時間を真剣に勉強しろ」と心配してくれています。ですからこのごろ急に先生の腹が、ひっこんだようです。こんなにしてくれる先生を持つて我々生徒は、大へん幸せな生徒だと思つてくれています。(嘘ではない) 次に休み時間の状態を紹介します。

休み時間は、トランプをやっている人、ストープの周りに立っている人、ワンマンショーを行なっている人などさまざまです。昼休みは、たまに「怪談」を話してみたりして、20分間近く過ごしています。その時のみんなの顔は、生き生きとした、ほんとうに「青春」といふ感じが表われています。でも、授業がはじまるベルが鳴ったその瞬間、みんなの顔は、まるで生命のない物体の様に突如、変身してしまふのです。しかし、そんな一日一日を過ごしているみんなの心は一年後かならずくる入試を背にしようとながらばっているのですよ。わかってもらいたいこのせつなさ、悲しさを……。

「あー最後に、どうでしたみなさん、わかりましたか2年E組を。うちのかみさんがこの本を読んで、泣いていましたよ。なんだか、20年前の中学2年の時を思い出したようですね……あ、あ、そうそう、体には、十分気をつけておいて下さい。何かあったら、この本を開いて下さい。すぐ来ますから……」

刑事ドラゴンコンボより

THE END



会 談 座



— 生徒会を語る —

今年の生徒会活動

玉木——それでは最初に今年の生徒会活動を振り返って、旧

役員の方から反省も交えて語ってもらいたいと思います。

古崎——今年の役員は、ファミリアな感じがあってよかった
と思います……。

中村(副)——この一年自分なりに一生懸命やって来たつもりなん
ですけど、やはり力不足というか、計画通りにうまくい
かなかったことが多かったですね……。来年の人達に期待を
かけるだけではないけれども……。ひとつひとつ計画的
にしていってほしいですね。

小林——先輩たちの生徒会活動を見て、何かばつとしないな
と感じる点も多かったけれども、今年いざやってみると、
なかなか思ったとおりにいかなくて……。反省しなければ、
なりませんね。もつとこまかいところまで気をくばらな
ければと思います。

玉木——ただ一人の二年生の役員石後岡君はどうですか。

石後岡——自分としては精いっぱいやったつもりですが、やは
りまだだめだったようです。もう一年継続しますから、努
力したいと思っています。

玉木——では他の新役員もいろいろ総務局の仕事でわからな
いところがあると思いますが、今年の活動をみてどうい
う感じをもちましたか。

佐伯——やはり内から見た時と外から見たとで感じが変って
きますね、一生懸命なんだなあとは思っても関心はなかつ
たといえますね。これからは内外の連けいを密にしたいと
思います。

中村(徹)——私もやはり関心がうすかった方です。まだ実感は湧
かないのですけれど一生懸命やらなければ…….と思います。

岸田——投書箱がありましたね。あれも今年の役員の人の苦
勞のあとだと思えますね。そのような苦勞を私達も続けて
いかなければと思えます。一生懸命やりたいですね。

増田——興味も関心もない生徒会……名前だけの生徒会で終
わりたくないと思えます。

萬巻——生徒会というと、表面に出るのは全校朝会とかで、
かげの苦勞は分らなかつたですね。

増田——みんな生徒会というと役員だけのものと思っている
ようです。どんなことをしているのかわからないので協
力できないでいるのかもしれないです。ですから、役員
の苦勞を分つてもらふこともたいせつなことです。

熊谷——僕も苦勞をわからなかつたし、なんとなく役員には
近づきにくい感じてした。もっとみんなに親しみのあるも
のにしたいと思いました。

玉木——今年の役員のよい点を一つあげれば、会合を多くも
つたことでしょう。役員七人でいろいろ話しあつてやつて
来たことは大変良かったと思えます。

それでは行事との関連について……文化祭の進行などど
うでした。

古崎——今年は積極的というか、皆が参加しているんだとい
う雰囲気があつたようです。進行も良かったと思えます。

玉木——一年生ははじめてだったわけですが、どうでした。
萬巻——中学校は歌が多くてあきるような感じがしました。

玉木——今年はフォークダンスを計画したんですが、雨天で
できなくなつてしまつて……。三年生はやりたがつてい
た感じでしたが、一・二年の方はどうでしたか。

岸田——クラスでも話題になつたんですが、どこでどうきめ
たのかわからなくて……。体形や組合わせなどに関心はあ
つたんですけれど。

古崎——三年の場合は修学旅行でやっているから、その余韻

も残つていてやりたかつたんですが、経験がない学年では
気が進まなかつたかも知れませぬ。来年計画するとしてた
ら代議員会を通して皆の声を反映させるべきでしょうね。

玉木——テーマを決めたんですがどうでしたか。

岸本——みんなから募集したんですが、良いのが少くて……

中村(▲)——プログラムに印刷してあればよかったと思う。

杉野——テーマの募集で、みんなが文化祭に興味と関心をも
つた点は良かったと思えます。

玉木——廊下にたくさん賞状がはつてありますが、五稜の
伝統というものをどう感じますか。

石後岡——入学した時、賞状をみてまわつて、先輩たちはすご
いなあと感心しましたね。あれに負けないように頑張りた
いと思いました。

玉木——ある意味では賞状は努力の具体的な形ということに
なりますね。

中村(▲)——私もたくさん賞状を見て先輩は優秀だったんだな
あと思ひましたね。今年はなにか、ガッツと落ちたとい
うか……。私達も頑張りなくちゃと思ひます。

玉木——先輩からきくんですが、昔の五稜中の生徒は掃除と
うさぎとびが上手だったんだそうですね。

佐伯——サッカー部はまだ日が浅いんですが、たしかに掃除
は最近だらしくなつてきていますね、全校生徒の気がゆる
るみかけているような感じがして……。

杉野——過去の栄光にとらわれずに、それをふみ台にして努
力していかなければいけないと思ひます。

五稜中の先生と生徒

玉木——それでは、五稜中の先生と生徒についてのみなさん
の考えをうかがつていきたいと思ひます。先生と生徒との

ありがたについて、何かありましたらどうぞ。

(あまり悪いこと言えないわ、という声)

古崎——まア、生徒と親しく話してくれる先生は多いし、生徒の方でも先生と話し合ったり、相談をたのんだりするということは、徐々に多くなっていると思います。また、そういうムードも高まってきているんじゃないかと思えます。でもね、まだ誤解というか、理解の足らない点もあるんじゃないかなア。つまり一方通行。だから、もっと多く、話し合う機会をつくるのが、今後の課題になると思います。

小林——そうですね、やはり先生と一対一で話し合っていてことはあまりありませんね。(一同うなずく)それに、私たちの方から先生に勉強以外のことで話しかけるとなると、何んとなくわざとらしい気にもなるでしょう。

(一同さらにうなずく)

中村(画)——修学旅行のときですけど、私たちのクラスでは最後の晩に、先生とみんな生徒全員で、恋愛について話し合いました。……別になんにもなかったけど……修学旅行という解放感もあったけど、やっぱりおおぜいだとか気楽に話せますね。いろいろなことで話しあえる場があつて、話しあえる先生っていいなあと思います。

玉木——理想の先生というのは、やはり、青春ものでよくやっているような、ああいう感じの先生らしくない先生でうちつきそうですね。

中村(画)——私はあの青春ものにでる先生がすべて良いというわけじゃないと思いますね。やはり先生としての威厳は保たなければならぬと思います。ただ、なんというか、口ではいいわなかもしれないけれど、どこかで、あなたかいいものが伝わってくるような先生が理想だと思うんです。

小林——そう、本当に生徒のことを理解してくれている先生

がいいですね。

杉野——学校というと勉強するところで、先生とは教える人というか、なにかそれだけなら冷たいというか、一段上という感じから抜けきれないんですね。勉強もだいじなんだけれど、そのほかに、心と心が結びあつて、親身になって私達のことを考えてくれる先生が理想ですね。だから、青春ものに出てくる先生が、それにあつたイメージで、人気を集めるのじゃないかな。

佐伯——ここにお二人の先生がいらっしゃるんで、お聞きしたいんですが、先生から生徒を見ると、どんな感じなのですか。(出席者一せいに先生とにらめっこ……笑……)先生たちもこう、〇〇さん嫌いだとか、理想とちがうとかそういうこと思っているんですか。

玉木先生——みんなにとって一番関心の高いところなのかな(一せいに笑い)

五稜中学校には六〇〇人をこえる生徒がいますね。そしてそれらの生徒は、誰一人として全く同じ人間というのはいないわけで、ひとりひとりちがった育ち方、性格、生活、考え方などを持って、一日一日成長し、変容していつていくんです。そのような生徒の集団に接する先生方は、ひとつのねらいというか、理想を持って指導にあたっているんです。そのねらいとは何だろうというのと、君たちの教室にかかげている五つの目標があるでしょう。あれなんです。

(誠実・協調……校訓だねとか、カヤカヤ……)

そのねらいに迫るといふか、目標を達成する道すじは、いろいろあるでしょうし、ひとりひとりによってもちがうわけですね。もちろん共通のものもありますね。ですから、君たちから見て、先生方の指導が表面的にちがって見えることがあるかも知れないし、その結果、好ききらいということかえこひいきがあるのか?などと思うようなことがあるのか

これからの生徒会活動

もしないね。しかし、はっきり先生が言いされることは、表面的に見て君たちが考えることは、先生方には決してないという事です。つまり先生方は、五つのねらいを持って、どの生徒も、その理想に到達できると信じて、差別なく君たちを教え、育てているんだということです。結論を率直にいうと、好きだ嫌いだなどということはないという事です。こうあってほしいという願いはありますけれど……。

「ここで先生は自分の若さを強調したんですが、やはり年だということ……笑いととも否定——青春ものの先生については、青春ものに出る生徒との比較において、生徒側……ウーン……というところ——この項略」

今の私達をどう思いますか。

玉木先生——一般的に今の中・高生には、三無主義が多いといえますね。無気力・無関心・無責任という。全部じやないけれど、一無か二無が、この生徒にも多いようですね。ここに集まっているみなさんはちがうよ。立候補し、立派に生徒会を運営して来ているんですから、三無主義者では、できないことですからね。とくに今年は、生徒心得の一部改善という問題をやってこれたし、生徒会専門部にいいこんでいて、その運営を円滑にしてくれした、表彰したいと思っている位です。先生が役員と接触が少なかったのは、今いったように、本当によくやってくれたということと、猪狩先生や他の先生方が、君達をよく理解し、指導して下さっていましたからね、それとね、会長の名がね、(笑い)どうも同じ姓で、呼びにくかったから……(笑い)「このほか、先生と生徒の人間関係のあり方や、学級会活動にまつてもお話し下さいましたが、紙面のつこうで省略します。」

玉木先生——先生から質問していいですか？ 新役員に聞きたいんですが、生徒会活動が低調だと批判されたり、生徒会々員の生徒会に対する関心が極めて低いと、君たち自身が言っている現状で、来年はどのように活動を盛り上げていこうと考えているか？ 何か具体的な目玉商品のようなものがありますか。

しばらく沈黙

考えている間、旧役員の皆さん、後輩になにか教えてくれませんか。

玉木——ぼく達が最初にとり上げた投書箱、あれでもっと投書が来て、いろいろな問題を細かいところまで教えてくれたり、活動のしかたに文句をいつてくれるような関心の深さを……ほしと思いますね。

古崎——クラブ活動の低下も事実ですけど、日常の勉強、休み時間や自習時間に、どのクラスもさわいでいるのが現状です。人のことはかまっていられないというところがあるんですが、自分だけという考えは、学校の中では通用しないということをおわかってほしいですね。議長副議長が中心になって復習させるとか、テストが近い時は、グループで相談させるとかすれば、友達関係もできたり、良くなったり、自然に協力しあっているというものが生まれてくると思うんです。そういう面から立てなおしていくと、生徒会活動にしても、学級会活動にしても、さかんになるんじゃないかなあ……と思うんです。

玉木先生——日常の生活のなかから問題点をみつけて、その解決をはかることからということね。

中村(男)——仲の良い友達同志ですと、いろいろな話がでて来

るんですけれど、いざ学級会でというところ、シーンとなつてしまふんですね。どうしてなんだらうと思つてゐるわけ。意見を求めても何もいわない、きまると、どこで誰がきめたと文句をいうんですよね。さつき先生からお話しがあつたんですが、やはり学級会活動を活発にすることがだいじだと思ふんです。議長、副議長で、その辺を考へて盛り上げるように学級会を運営すれば、学校全体がもつとまとまるんじゃないでしょうか。

小林——五稜中学校は、外から見ると、すばらしい学校、と見られてゐる感じで、私達も、今までの先輩を見ると、すばらしい人に思へるんです。今までがそういうことですから、そういう面にあまえてゐるよう思ふんです。現状はぬるま湯にとっぷりつかつてゐるような感じで、それが完全につかりきつてしまひそうですね。私たち自身では、一生懸命やつたつもりなんです、できなくて終るよう、来年の人は、ひとりひとりの生徒に、行事なら行事を通して、どんな問題をぶつけてやつて刺激を与へ、どんな手伝わせるような活動をしてほしいと思ひます。

玉木先生——生徒同志のきびしさに欠けてゐるというわけですね。同感ですね。

石後岡——今、先輩が指摘してくれたことを基盤に、これから、役員一同話しあつて、具体的な方針や方法をたてていきたいと思ひます。

役員たち——そうですね、がんばります。

「このあと、先生のお話しや、役員の意見が出ましたが省略します。」(気力充実、やらんかなの雰囲気あり)

玉木——今の話しあい、この座談会のねらつたところも出終わつたようです、最後に先生方何か。

猪狩先生——大変有意義な時間でした。せつかくの冬休みの一日をさいて、こんなに真剣に話しあつてくれたことが、

きつとすべての生徒の目をさます鐘になるだらうと思つてゐます。旧役員の生徒のみなさん、本当によくやつてくれました、ごろうさんでした。新役員は、先輩に負けず、来年度の生徒会運営に頑張つて下さい。

このあと、機関誌の編集発行がありますが、その中へ、皆さんの生徒会に対する熱意をこめてみて下さいね。

玉木——では、これで座談会を終わります。先生方、ありがとうございました。(拍手)

【出席者】

先生 玉木 先生

猪狩 先生

旧役員

玉木 一成

中村 晶子

杉野奈津美

古崎 毅

小林 雅恵

岸本 真

新役員

石後岡正弘

佐伯 裕之

中村 牧子

岸田 茂子

熊谷 司

増田 好美

葛巻 俊一

文苑

作文

第2回中学生作文コンクール(毎日新聞社主催)
市長会長賞受賞作品

五稜郭城を復元しよう

二年E組 川 辺 公仁子

私の家は五稜郭公園のすぐ近くにある。天気の良い朝、公園の堀を一周するのは、私と父にとって、最も楽しいことの一つだ。父は「この静けさがなんともいえない」と口ぐせのように言っている。また、公園内の広場は、運動会や遠足に利用され、いつも家族づれなどでにぎわっている。——市民にとっても親しまれている五稜郭公園なのだ。

小さな頃は、私も今の五稜郭に十分満足していた。しかし歴史の勉強をするうちに、この五稜郭が歴史上非常に重要な意味を持つことを知った。

松前城・四稜郭などと共に箱館戦争の舞台となった五稜郭。国内最後の戦争の地として、観光都市函館にとって大切な場所である。しかし、せっかくやって来た観光客の中には「何もないじゃないか」という声をあげる人がいる。なるほどこの五稜郭には城がないのだ。

五稜郭城は、オランダ式築城法で有名である。しかし、肝心の城がないのだから、観光客にとっても足りない感じがするのかもしれないことだ。

公園内の博物館は、いろいろな品が展示されているが、松前城・弘前城などの持つ迫力に比べると、どうも見おとりがする。

そこで私の提案だが、五稜郭城を復元してみてはどうだろうか。博物館には模型や資料があるのだから、その気になれば復元できるはずだ。そして内部を現在の博物館にすると、観光用にもなる。

むろん、石垣から昔を偲ぶという優雅な楽しみ方も結構だが、歴史の変動に終りを告げ、新しい時代の息吹となった箱館戦争のシンボルとして城ができれば、私達にとって五稜郭が一層身近なものになると思う。

以前、私の叔父が函館に滞在した時、五稜郭に深く感動し、数十首の歌を詠まれたそうだ。「つわ者どもが夢の跡」を懐しむ人の一人なのだろう。しかし、城がたつことにより、その感銘が深まるなら素晴らしいことだ。

また、まだ私が小さな頃、公園内の小店で、天井に飾ってある箱館戦争での活躍者の肖像画に、何か異様な、しかし今思えば歴史の重みとでもいうような迫力を感じたことは、今も忘れられない。そのことからいっても城を復元することの持つ意味は大きいと思う。

ロマンを求めて五稜郭を尋ねる人々にとって、あまりにもかきたるものが少ない五稜郭。全部とまではいかなくてもよい、せめて一部でも復元してほしいものだ。



読書感想文

第17回読書感想文公募(函館図書館第一分館主催)
入賞作品

「沈黙」を讀んで

二年E組 川 辺 公仁子

一六三九年、ポルトガル人來航が禁止された日本に二人のポルトガル人司祭が密入国した。彼等の目的は、基督教禁制のため棄教したと噂されている、師フェレイラ司祭の行方とその噂の真偽を知ることだった。

初め彼等は隠れ切支丹のため布教するが、転び者キチジロの裏切りにより役人に捕えられ、一人は殉教、もう一人のロドリゴは様々な拷問の末、師フェレイラ同様棄教の運命をたどる。

キチジローは、拷問の恐ろしさに兄弟や仲間をも捨てて一人だけ棄教し、といって信仰を捨てすることもできず、中途半端な状態でいるうちに、司祭を裏切ってしまった弱い男だが、この男の言葉にこういうのがある。

「……踏絵をば俺が悦んで踏んだとしても思つとつか。

踏んだこの足は痛か痛かよ。俺を弱か者に生まれさせておきながら、強か者の真似ばせろとデウスさまは仰せだされる。それは無理無法というもんじやい。」

この言葉は私の胸にズシンとこたえた。

強い者と弱い者。確かに人間にはその二つのタイプがある。

神は姿形を現わさない。だから世の中が平和な時は、多くの人が良い信者として一生を送れるはずなのに、基督教禁制の時には、そのほとんどが迷い、神を捨てるのだらう。しかし、中にはどんな目にあわされても神を信じ続ける人々もいる。ここで強い者と弱い者とに分れてしまうのだ。

強い者は、きっと永遠の喜びを得ることだらう。それはそれでよい。しかし残った弱い者はどうなるのだ。そのまま見捨てられてしまうのか。神はすべての人間を愛しているはずではないか。

やわて、ロドリゴが踏絵を踏む、最も感動的な場面になった。

今までどんな拷問にも屈しなかったロドリゴだが、旧師フェレイラの「お前が転べば、今拷問にかけられている人々は命を救われる。お前は教会の聖職者達に非難されるだらう。だがお前がこれからやろうとするのは、今まで誰もしなかった一番つらい愛の行為なのだ。」という説得のもとに、とうとう踏絵の前に立った。が、まだ足をあげることはできなかった。彼の心の苦しみを考えると私は震えた。とその時、踏絵の基督は彼に話しかけた。今まで何度救いを求めても沈黙を守ってきた基督だった。

「踏むがいい。お前の足の痛さをこの私が一番よく知っている……。」

そしてロドリゴは踏絵に足をかけた。

沈黙の破れる時、その時あつてこそ沈黙ではないだらうか。

その後、転んだロドリゴは奉行から「岡田三右衛門」という死んだ男の名前とその妻をもらい、六十四歳まで生きながらえる。彼はどんなにつらかったことだらう。しかし彼は悟るのだ。「教会という枠から外れて私は基督を愛している。今の私の心を基督さえ分ってくればよい。」と。

最後に、告悔をきいてもらいに來たキチジローに彼が言った言葉、そしてこれこそやはり弱い人間である私の救いとなり、最も感激した言葉だった。

「裁くのは人ではない。そして私たちの弱さを一番知っているのは主だけなのだ……。」

強い者も弱い者もないのだ。強い者より弱い者が苦しまなかったと誰が断言できよう。

「あしながおじさん」を読んで

一年D組 山下 明子

私がこの物語を読み終ってすぐに感じたことは、主人公ジェルーシャのような人が世界のどこかに生きていていつも幸福を求めているのではないか、ということだ。

ジェルーシャは、孤児院にいる時はけっして幸福ではなかった。むしろ不幸だったのに、大学に入学してから、「孤児院にいた時のことは、とてもよい勉強になっている。」と言った。不幸だったあの生活のどこがよいのだろう。あの

ようなことがよい勉強になっているというのだから、なんと勇氣と広い豊かな心の持ち主だろう、ジェルーシャは。

「あしながおじさん」の物語の中で最も感動したことは、ジェルーシャの性格とおじさんに恩返ししようと思えまなく努力を続けるジェルーシャがスミス氏に、生活のよう

すをこまごまと書いた手紙を送るのは毎月一回でいいということに、ジェルーシャは三日に一回も手紙を出している。このことからジェルーシャはよほど心の友がほしかったのだということがわかる。

面白いことに、ジェルーシャがおじさんに出した手紙には、ある時は友達に書くように書いていたり、ある時は、皇帝が大統領に書くみたいにかしこまって書いていたりする。

あしながおじさんがジャービスさんだったということがわかった時のジェルーシャは、いったいどんな気持ちだったろう。ひとまず正体がわかってほっとしたのだろうか。けんか別れのジャービスさんで、がっかりしたのだろうか。それともジャービスさんであつたことにまず驚いていたのだろうか。私がジェルーシャだったら、驚くと同時に少しきまり悪く思っていただろう。なぜかという、ジャービスさんとジュリアは親類どうしだ。だがジャービスさんはジュリアがきらいだ。

ジェルーシャは時々、おじさんにあてる手紙にジュリアへの反感や悪口を書いている。だから、いくらめいがきらいとはいえども、親類の子の悪口を言われて、ジャービスさんは気を悪くしていたかもしれない。(もちろん、この当時はあしながおじさんの正体はわからない。)だから私だったら、あしながおじさんの正体がわかった時、もうその場にはいられなくなり、さっそく逃げ出す計画をたてていただろう。

だが、ジェルーシャの場合はちがっていた。なにしろジェルーシャは人一倍陽気だ。もちろん、あしながおじさんの正体がわかった時は驚いた。だがジャービスさんがあしながおじさんであつたことを本当にはこりに思いうれしく思った。この場合のジェルーシャを参考にしたいと私は思う。

ジェルーシャは、よく四年間も手紙を書き続けられたものだ。私だったら途中であきてしまつて、一年いや半年ともたなかつたろう。

それからジェルーシャがおじさんに出した手紙の中で印象に残った文章があつた。ジェルーシャがあまりにもさみしい身の上であり、そしていつも信じあえる人を求めている、それが早く現実化するように、理想的な生き方をつづつた文だつた。原稿の関係でここに書くことが出来ないのがとても残念だ。だが、この文は私の全身にがんときた印象的な文だつた。

「あしながおじさん」を読んだことのない人は、ぜひ読んでほしい。そうすれば、今言った「文」のこともよくわかると思う。そして、読んだあとでは私のように感想文を書かずにはいられなくなるのではないかと思う。

この物語は、これからの私の進路や人生の生き方などにについてひじょうに役に立った。これからもこのような本をたくさん読んでみたい。いや、読む必要があると思つている。

「スポーツの夜明け」を読んで

一年 加藤 久典

いまやたくさんの人々に親しまれている「スポーツ」、テレビやラジオでも、しょっちゅう放送されているし、新聞を見てスポーツのことは、いつも大きな話題である。

また、テレビの野球などの放送を見ると、いつも何万人にも及ぶ観衆が詰めかけている。

ここまで書いて気づいたことだが、スポーツといってもなぜか、するスポーツより見るスポーツのほうが盛んになっているようだ。もちろん、スポーツとは見るためのものではない。自分でやってみて、自分の力で頑張つて自分で楽しむものである。そういうところからスポーツというものが始まったのである。いや、ただスポーツを見ているだけの人も、実際に、やりたくてしょうがないにちがいない。そんな人にかぎって、「おれも学生時代には、エースで四番打者で……」などという人が多いものだからである。

それではなぜやらないのか、というところの本に書かれているように、やろうと思ってもそのひま（時間）がない。またする場所（施設）もないし、仕事で疲れてめんどうくさくなったり、いっしょにする仲間がいなかったりするからである。みんながいつでも好きなスポーツをできるようにするには、この問題を一つ一つ解決していくことが必要だ。まず第一に時間のことだが、この問題は近ごろのように、週休二日制になったり労働時間が短縮されてきたりしてきたので、だいたいは解決される。

また、時間があれば仕事の疲れもとれるし、自然に仲間だつて集まる、と思う。

次に施設の問題である。現在日本にあるスポーツ施設のはほとんどは、学校の施設か、どこかの企業の作った何百万円も支払わなければならないようなゴルフクラブ、テニスクラブや、少数の人数しか利用できない施設などである。でも、それでは困る。

「何かスポーツをしてみたい。」と、思った時に、だれもがすぐに気軽にスポーツを楽しむ事ができるようにするには、どうすればよいか。いちばん良いのは、公共社会体育施設をほとんど作ることだ。公共の施設がないから運動したくてもできない人がたくさんいるのだ。函館市では、近ごろだんだん施設ができてきて、それに共なってスポーツも少しずつ盛んになってきたようである。

しかも、その施設などを利用して、春夏秋冬いろいろなスポーツをしている。たまには勉強が二の次になるくらいである。なぜそんなにスポーツばかりしているかというと、第一に楽しいからである。スポーツに打ちこんでいる間は、いかな事や、むしやくしやすする事など、全部忘れられる。また、それまでできなかった事が、できた時や、苦しい事を乗り越えた時の喜びは何ともいえない。「勉強もしないで……」と、言われるかもしれないが、こんなことを思う存分にできるのは今ごろだけなのだから、勉強勉強と縛られることはないと思う。

近ごろは、身体障害者の人々もスポーツのできる施設がほんのわずかではあるができてきた。障害者の人たちは、それまではやれなかったスポーツを始めて、とても喜んでいる。障害者の人たちは、時々集まって練習をし、パラリンピックなどで競技をする。そして、勝った人も負けた人も手をたずさえて、障害者のスポーツをもっと盛んにしよう、と誓い合う。こんな事は、障害者のスポーツに限らず、すべてのスポーツに必要な事だと思ふ。それぞれの人が、一生懸命に練習を重ねてくる。その成果を、競技、競争の時に思いきり発揮して戦う。そして勝ったから喜び、負けるとくやしがり、その後相手の選手と仲良く別れる。そうして、競技の中で何かを学び、また、この次に合う時には……と、練習を始める。スポーツによって、他の学校、他の地方との交流、さらに他国

との交流も成り立つのである。

こういふのが真のスポーツマン、スポーツウーマンなのだと思う。

スポーツをするというのは国民の権利である。しかし、現状では、必ずしもだれもがすぐスポーツに取り組む事ができるわけではない。これから先、だれでも老人も若者も、子どもも、男も、女も、初心者から一流選手まで、職業や貧富を問わずいつでも、好きなスポーツを楽しむ事ができる、というような理想的な社会を皆なで育てていく事が大切だと思う。「スポーツの夜明け」、明るく輝くすばらしい夜明けになつてもらいたい。

「田園交響楽」を読んで

三年B組 玉 木 一成

自称「無宗教家」の僕にとって、宗教への関心はそれを知らないだけにたいへん強い。神秘的で入り込むすきもないように感じたり、非科学と割り切つてしまつたりもする。疑問もあり、不明瞭なこともたくさんある。

壺井栄の「あたたかい右の手」を読んで以来「神」、「信仰」、そして「宗教」といったものに対し、もやもやとした疑問をいだいていた。神の存在は別としても、娘の死を悲しまず「神様に召されていったのですから」と平然としている姿に、とても抵抗を感じていた。他にもいろいろなことが描かれていたが、ともあれこの作品を読むことは、この種の問題を考へてみるきっかけとなつた。そして今、僕の頭に浮ぶ三つの言葉、「超人間的」、「絶対的」、「運命」。

牧師が少女に出会つたとき「神様が私の行く手にある義務をお置きになつたのだ。そしてその義務を避けることは卑劣なことなのだ」といつている。この姿は牧師としての使命感に満ちあふれている。また、単なる同情だけならば、あんなに根気よく少女の心身の発達に努められたらどうかと思う。牧師はたとえ自分の避けたいことでも、人々を幸福にするなら、神の与えた義務として忠実にやりとげようとするものな

のだろう。

はじめは無表情で意志というものを表わさない少女も牧師の献身的な教育により、人間として生きていくことを見い出す。しかし牧師の教えは彼の頭の理想的な美しい世界であつて、現実には存在する「悪」「罪」「偽り」については何も語らない。牧師としては罪を知らない完全な幸福を育てあげようとしたのだから、現実には生きる人間なら、なんらかの形でそれらの姿をつきとめていくべきではないか。人間が完全でないことはもちろん知つていゝはずなのに……。

美しいことしか知らない、というよりは知らされていない少女の接した現実の姿——自分とめぐる牧師とその妻のいさかい、妻というものの存在、牧師とその息子の愛の板ばさみ——開眼手術成功後に自殺を図る。息子のジャックこそ自分と共に生きていく人だと発見したときに。そのジャックに、牧師には教えてもらえなかつた「われかつて律法なくして生きたれど、戒命きたりしときに罪は生き、われは死にたり」という聖パウロのこの一節を教えてもらふ。僕にとつては、「意味のとりずらい、難解な文」ぐらゐにしか感じられないが、彼女にとつてたいへん大きな影響を与えることになつた。

「美しい世の中」のみを知らされてきた少女は、牧師から見てたいへん幸福だつた。ところが少女は「そんな幸福はいりません。それよりも私の知らない悲しいことを教えて下さい」と反発する。それを知らたいほど彼女は成長したともいえる。この知りたさを満してくれたのがジャックであり、さきの一節を教えたのだ。「われかつて……」の解釈も違つていたからこそ、父は教えず息子は教えたのだから。もちろん人それぞれ主張、考えは違うものだろうが、「宗教は絶対的な間、小さな一節でも、その解釈が違つていゝことは少し変に思へた」。

また、こんなことも思つた。彼女の場合、知りたいことを知つたため自分の破滅をまねくことになつたが、「真実を知り、そして考えることは人間にとり不可欠なこと」と、彼女

の成長につれ強く感じた。

なかなか理解できないことも多く、宗教のむずかしさをひしひしと感じた。しかしながら作者ジイドが「宗教的」な雰囲気の中ですこす、厳格な家庭で育ったことも考えると、作品の中に漂う宗教的な「威圧感」、目も見えず、話すこともできない少女が飛躍的に成長したことも、今となっては納得のいくことに思えてくるのだ。

中島敦の「名人伝」を読んで

三年B組 今村 曜子

この中国古典風の物語は、一人の凡人紀昌が、弓の名人になることを志し、多年の修業の後、ついに弓術の奥儀を心得るまでの話です。その悟りの境地とは、「不射の射」つまり弓矢を使わずに、ただ射る形をとるだけで鳥を射落とせることです。悟りを開いて、山を降りてきた紀昌の顔は、無表情で、目はとろんとぼやけ、でくのぼうのようでした。そうして弓とはどのようなものかというすらも忘れ果てていたのでした。

一体、作者は、この小説の中で何をいおうとしていたのか。私はこんな風に思うのです。おそらく作者は、「自分の芸術家としての理想の姿は何なのか。さらに、人生という修業をしつづける人間が、最後にいきつく姿はどのようなものか。そうして人間の生きる目的は何であるか」という事を私達に問いかけたのではないかと。

「人間の生きる目的は何か」についての作者の結論は「人間は、自己の人格の完成、つまり『悟り』を開くために生きている」ということでした。私はまた、自分が何のために生きているのか。何のために勉強をしているのかということを考えたことがなかったのだ。この作者の意見によって、目がさめた思いでした。確かにそうなのです。道は違っても、武道家は、武道の奥儀を心得るために、お坊さんは、最高の心境に達するために、学者は、学問の究極に達するために、毎日修業を積んでいるのです。そんな発見を兄に話したら、こ

んな事を教えてくれました。

「武道家は、修練を積むと、相手の殺気を感じとって相手のすばやい動きが、はつきりと見えるようになる。また、数学や、英語を学ぶ時、はじめはまるでどろ沼にはまったようにさっぱりわけがわからず、投げ出したくなるけれど、しばらくがまんして勉強していると、ある日突然、ぱっと世界が開けたように頭の中が明るくなってどんな難問もすらすら解けるようになる。きつと、こんな感じを『悟り』っていうんだらうな。又仏教では、戒律を守り、禪という修業を積むと悟りを開くことができるという。シヤカもまた、多くの苦悩のうちに、悟りをきわめ、この世とあの世を含む『世界』が見えるようになり、霊と語り合い人の心がよめるようになった。彼は後、苦悩する人々を救うことに、一生をささげたのだ」と。

作者のもう一つの結論はこうです。

「人間が悟りをきわめた理想の姿は、『無』である。弓を使うことなく、自我というものもなく、欲もない。そんな状態である。」兄に聞くと、この考えは、「無為無我」といって、中国の思想家「老子」の考え方だそうです。でも私は、この考え方には、まだ納得できないのです。というのは、私自身、まだまだ、やりたい事、しなければならぬ事が山程あるのです。そして大人になった時初めて、何かをつかみ得たらと思っています。

私は、人間の生きる目的は「自己の完成」の他にもう一つあると思うのです。それは、「社会のため人のためにつくすこと」です。ちやうど、苦悩の世界からぬけだして悟りを開いたシヤカやキリストが、今度は人々を苦しみの世界から救うために、一生をささげたように……

「私達は何のために生きているのか」ということを問いつづけながら生きていかなくては……とつくづく思わされました。

最後にふとこう思いました。紀昌が「不射の射」の次に知った弓術の境地は、もしや、「不射の不射」ではなかったのだろうか……つまり、弓矢を使わずに、ただ射る形を

とると鳥は自分の体を目にみえない矢が付きぬけた事も気づかず、飛びさつていつてしまふ。

これこそ、「無」の境地なのではないかと——

しかし、よく考えるべきことは「無」という言葉は、何もしないということではなく、何ごとにも、努力し、自分のものにしたあかつきに、初めて知る心の姿ということです。私もこれから長い一生をかけて、ほんの少しでも、人のために役にたつことができるように頑張つて生きていきたいと思っています。

「十八歳の日記」を読んで

三年D組 原 田 かおり

自愛——人間的な自我の自愛は本来自分だけしか愛さず、自分のことだけしか考えないものだ——私はこの物語を読んでふとこんなことを思い出した。死期をまぢかにむかえた老人と、孤独な少年の姿をうきばりにした作品。実感のこもった日記小説。ほのかに浮かぶまぼろしのように、美しく悲しい文体が、妙に心にしみる。

老醜の肉体をさらし、わがままばかりいう老人。生ける屍。そんな姿を不潔とうけとめた少年だが、しびんに老人のするおしつこにチンチンと谷川の清水の音をその耳に聞く。この作品の中で、最も美しい場面。作者の言うように、「忘れられた過去の誠実」だと、私は思う。うとましい仕事。しびんをもつのは、一番いやだという少年。だが、それにかかわらず谷川のせせらぎとうけとめたのは、少年の純粋な心、すなおな心からくるのだ。少年の感じやすい心が私の心に深くくいいこんでくる。

老人の命の燈火が消えかかっているとき、少年はそれを暗うつに受けとめる。この二人が妙にとけあつていて、ただならぬ悲哀感が、ひしひしとこみあげてくる。悲しさと寂しさがうずをまいて二人を暖かくしてはくれない、それが私の不安定な心を、いやが上にもゆさぶる。少年は言う、「学校は私の楽園である。」それほどまでに少年は、家の中をきらい、老人をうとましくうけとめたのか、それとも、身内の者へお

ほろげに、しかし確実に迫る「死」への恐怖をけそうとしたのだろうか……。

私にも、祖父がいる。そっくりだ。ここにてでくる老人と。過去ばかりを見つめ、自分が成功した数多くの思い出にすがりつて生きている——骨ばった顔、おおかたはげた白髪の頭、わなわなと震う骨と皮の手——本当にぞつとしてみま。だがさけてはいけない、祖父だつて好きで老いていつてゐるわけではないのだ。——人間が生まれ落ち、育つて、ついにくちること——それが人生なのだ。もう決定的なことだから、かつて老人が祖父の姿がいたいたしくなるのかも知れない。少年は、ときどき強い不安をいだいた。迷信だということも正当化され、祖父の体の中に毛物(獣)がついていうことも本気で考えたりする。やはり二人だけの生活は心細いのだろう。人間の弱さ、ボロボロとくずれていく弱さを、少年はかくし通すことはできない。何度も何度も心の中で否定しても、またうかびあがつてくる「毛物(獣)」の迷信。しかし、毛物(獣)を殺そうとして、剣をふりまわすことは、よけいにむなしい少年。

この作品で、じわじわと迫ってくる悲愁、それが私を、悲しくさせる。——全くの孤独だ、孤独の悲哀——とは祖父のことだ——と考える少年。青白い死の影が家全体にうかぶ。「急なことはないけど、おいおいからだがついてきますやろ」——いたいけな少年は、陰うつな響きのことをばをいったいどのようにつけとめたのだろうか。間近に死期をむかえた病人と、寂しい少年。そして、人間らしい美しい愛の争いというようなテーマがよけいに悲しくなる。

少年がささやうと努めても、底のない谷間に落ちていく老人。誰もいない暗い所へ帰っていく人間、そして、無差別な愛、つまりキリスト教アガペーのようなものを信じずにはいられない少年と老人。思わず人間の弱さと悲しさを考えさせられてしまふ。

それにしても、ときどきやさしさを見せる少年と老人の姿それだけが、この作品の唯一の救いだ。病む人と看病する人の互いのわがままばかりが広がるこの暗い作品の中で、やわ

らしく漂うやさしさ、一筋の光がときどきあらわれる。無意識のうちに傷つけあつていた二人だった。が、愛と憎しみ、美しさと哀しきは常に裏・表にあつたのだ。

人間が生きているというこゝと自体が、罪なのかも知れない。どうすることもできない極地など人生に数々ある。だが人間は強くなければいけないし、そうあるべきだと思う。私は、この作品を読んでそんなこと感じた。

最後に、何となく涙をさそつた一文。

「私は祖父に対して別段やましいとは思わない。なぜなら私は、おぼろげながら死者の叡智と慈愛とを信じていたから」

「羅生門」

三年E組 長谷川 公子

「人間は、エゴイズムである。」と、芥川が叫んでいるようだ。一人の下人が、羅生門の下にいた。男は、主人に暇を出されて、行くところがない。

私は、この感想文で苦心した一つに、この書き出しがある。芥川の文章は、文末を冷淡に打ち切っているが、なんともいえない暖か味があり、どの文も、簡潔で無駄がない。私は、それを少し真似してみたつもりなのだ。

私は、この小説を読み終わった時、なんとなくぼんやりしてしまつて、これで終わったのかな、と思つた。そこで、この余情をどうにかしたくなつて、いろいろ考えなければならぬような気持ちになつた。

まず、この男の心の変化に気を配る必要があると思う。

一人の下人は、途方にくれて、「どうにもならない事をどうにかするは、手段を選んでいゝとまはない。選んでいゝれば、飢え死にするか犬のように棄てられてしまふ。選ばないといふれば、いゝし、この「すれば」はいつまでたつても、結局「すれば」である」と、盗人になるか飢え死にするかの接点に立たされてゐた。それから寢床にしよう、門の上の楼へ上がつていく。(身を殺しながら)そして、次の瞬間老婆を見た。死人しかいないだろうと思つてゐた男は驚いたが、

老婆が一本ずつ死人の髪の毛を抜いているのを見ているうちに、下人の心から少しづつ恐怖が消えていった。それと同時に、この老婆に対する激しい憎悪とある勇氣が、少しづつ出てきた。「死人の髪を抜くことは、何ぼう悪いかも知れぬ。じゃが、ここにいる死人は皆その位の事をされてもいい人間ばかりじゃ」「では、己がひきはきをしようにと恨むまいな」男は、老婆の着物をはぎとり、どこかへ行つてしまつた。

初め、この男は、手段を選ばなければ盗人になる。ということを否定してゐた。しかし、その男がどうしようもない難事につかつた時、だんだん自分を忘れ、自分が生きるために鋭い人間に変わつていく。それを最もよく表わしているのが、彼の赤い臍を持つた面抱だ。この面抱が登場するのは、男が棲を登り出したところからで、初めは、この面抱を隠している。老婆の話を聞いている時は、面抱を気にしている。そして、男はひきはきをする時には、面抱から手を離し、それと同時に、盗賊になつてしまつた。

始めの、「人間は、エゴイズムである。」ということについて。これは、いつの時代も否定できない事実だと思う。

「人間は、社会的動物である。」といわれるが、それは、我々が常道をわきまえて生活をできるときに、孤独に耐えられない人間の弱さを表わしている。

しかし、現代のように、物質的文化が進歩すぎて、精神的文化がついていけない状態では、乱れた風紀が人間を孤独で自己中心的な動物にしてしまふ。人間に、義務も責任も秩序もなくなるという事は、それと同時に、人間が人間本来の姿を破る。

父の日・母の日記念作品

第三回 父の日・母の日記念

感想文・詩公募(函館図書館第一分館主催)
詩の部入賞作品

母の日の日

一年B組 三浦 千恵子

とってもさわやかな朝だ
とってもよい香りがする

ふと、今日は母の日だと思いだす

いつも お日様がでてきたばかりのように

ニコニコしてる母さん

今日は、赤色のカーネーションを買う日か……

スカarfでも一枚買ってやろうかとも思う

でも母は ニコニコと、たった一りんの

カーネーションを

「どうもありがとう」

って、気持ちよく受けてくれるだろう。

ビートルズみたいなぐしゃぐしゃ頭してる母さん

いつも歌を歌いながら大きな口をあけている母さん

外人みたいにひっこんで

茶色っぽい色してる母さんの目

なんとなく その顔が目の前に浮かぶようだ

いつも反発ばかりして ゴメン

時々けんかをする

反省し、今度は絶対しないと思うだけ

どうしても けんかしちゃうんだ ゴメンネ

でも、また時々けんかしようや

来年は もっとたくさん

カーネーションをおくります

母さんこれからもよろしく!

感想文の部入賞作品

私の父の日

一年B組 鈴木 千里

私の父は、青函トンネルを作るために、いつも「竜飛」というところで働いている。

だから、他の家のお父さんのように毎日帰ってこれない。だいたい一週間に一度か、忙しい時は、二週間に一度ぐらいしか、帰ってこれないのである。平日は、前もいつも遅かったのであまり気にならない。ところが、日曜日や祝日などになると、友達の家は、みんなお父さんが、家にいるのだ。

「アイイナアー」

いつも、にこやかで、優しく、おこるととてもこわい。そんな父がないと、家の中が静まりかえり、食事の時もどこ

となく物たりない。活気がない。

そんな時、毎日お父さんが家に帰ってくる友人達が、うらやましい。休日には、どこかに出かけて楽しくやっているのだらう。月曜日には、出かけた時の話が一番の話題になるの

だ。そんな私の家に、父が帰ってくるとなると、大さわぎだ。母は、まず最初にお化粧を始める。そして、三十分ほど鏡台の前で、鏡とにらめっこをする。その間、きつと父のことな

どを考えているのだらう。時々「ニコッ」と笑う。お化粧が

終わると、

「今日は、お父さんの大好きな、しゃぶしゃぶよ!」

と、とてもうれしそうに、ニコニコと微笑を浮かべて、歌

を歌いながら、台所の前に立つ。

私は私で、父が帰って来たらどんなことを話そうかという

いろ考えながら、家の中をかたづけ。

母が、腕をふるって作ったごちそうが、できた。いくら待

っても父は帰って来ない。おなかはグウグウ鳴るし、時間も

遅くなった。とてもいっしょに食べたかったのだが、しかた

なく、私と弟は先に食べることにした。私たちが食べ終わっ

ても母だけは、一口も食べないで父が帰ってくるのをじっと待っていた。

私は、そんな母がたまらなく好きだ。その大好きな母をいつまでも待たせる父がちよびりにくたしくなる。母の日は、お母さんの手つだいをしたので、今度は父の日にお父さんの喜ぶことをしてあげたい。

おかあさん

一年A組 井村 千佳子

おかあさん。

いつも私のことを考えてくれる、

おかあさん。

あれた手をして、家事をして、

キズつきながらも、

いつしようにけんめい仕事にはげむ

おかあさん。

あんなに深く指をきり、

痛いだろうに。

悲しいドラマを見ると、

おかあさんの目には、涙があふれている。

やさしいおかあさん。

おなかの太り方を気にし、

体操すると言いながら、

三日坊主のおかあさん。

私が注意してやると、

あきらめたように、ことばを返す。

がんばってほしいのに。

スーパールに行ってくる、

たまにおみやげ買ってくる。

初物が出ると、

私に食べさせようと、買ってくる。

ほんとうにやさしいおかあさん。

どうもありがとう。

でも私は、しよっちゅうしかられている。悪いと思っけていても、

すぐに心配かけてしまう。

ごめんなさい。

時には、確かめもせず、

やたらに私をおこることがある。

自分が悪くても、絶対に認めない。

そんな時には、ほんとうに憎らしい、

おかあさん。

いっぺんに大きらいになつてしまふ。

だけどいつもは気のつくおかあさん。

体のことも考えて、

家事にはげんでくださいね。

うちのおかあさん

□一年E組 加賀 多佳

「おかあさん、本当にありがとう。長生きしてね！」

この言葉を、おかあさんにささげます。私が学校から帰ると

いつもつかれて頭が痛い腰が痛いなどと言っているおかあさん

だけど、それを見てなにもしてあげられない私が、とって

も辛いのです。

私は、このごろ特に考えます。おかあさんは、年をとって

きて寿命がもう少ししか、なくなつたのではないかと、へん

なことを考えるなあって言われるかも知れないけど、いつも

腰・頭・足のひざが痛いなどと言っている、心配になつて

きました。それに、私より三倍以上も多くこの世の中に、

いるんだもの、なおさらです。でも大好きなおかあさんが、

もつと長生きしてもらうために、肩をもんであげたり、部屋

をかたづけてあげたりして、いろいろ手伝っています。

以前に、おかあさんがギックリ腰をやつた時を思い出して

見ると、いまだに頭の中に浮かんでくるものがあります。そ

れは、ギックリ腰をやると、とつても痛いのだそうです。す

わっている姿勢から、急に立ち上がると腰にある神経がキー

ンと痛むのだそうです。おかあさんが、そういった痛い思い出をしているのを見ると、とっても辛い気持ちになりました。

このごろ、近くの銀行で、体の健康について説明していることがあるのです。その時に、おかあさんはいろいろな話を聞きに行つて心配そうな顔をして、家に帰つて来るのです。

時々、おかあさんが、私に言います。

「前みたいに、多佳子をしかる元気が、なくなつてしまった」と。私はなんとなく、前のように悪いことを、やつてもしかられない、うれしさがこみ上がつて来ました。でも、元気がなくなつた、と言ふおかあさんの言葉をとから考へてみる

と、「どうしたのかしら?」と考へます。

夕御飯を食べてからのだんらんには、学校のことなどいろいろな出来事を話します。私の家庭のとりえは、なんでも気軽に話せるし、いつも笑ひの絶えないところだと思ひます。その中でも中心になつてゐる、おかあさんは、家族みんなの話し相手としても、私はとっても大好きです。

今から考へて見ると、私が病院に入院した時、看病してくれたおかあさん、ほんとうにありがたう。これからは、親に心配をかけないようにしたいと思ひます。だって、これが父母にしてあげられる、親孝行なのだから。

最後ですが、今までのことをふり返つてみると、いろいろおかあさんに、世話になつたことがあります。

一言、「おかあさん、ありがたう。」

私のママ

二年E組 三 箇 かおり

私のママは、怒るとすぐ、おっかないのです。とくに、私か弟が、悪いことをして、素直に「ごめんなさい」と言わないで、言いわけをしたり、文句を言つたりすると、大変怒ります。でもすなおに「ごめんなさい」と言つたときは、それほどでは、ありません。ママの気持ちもわかりますが、私や弟にとっては、言いわけをしたりするのは、私や弟なりに

考へがあるのですから、そのへんをもう少し、考へてほしいと思ひます。

恐いときもあるママですけど、休みの日には、掃除を終えたあと、テレビを見たり、こちよがしつこをしたり、ゲームをしたりして、子供と遊んでくれるのです。遊んでくれるばかりではなく、友達のように気軽に、相談にものつてくれます。私は、友だちと、交換日記をつけているのですが、相手からこんな相談をして来たことがあつたのです。

○ 六月二十六日

Aさんとけんかしたやつたの。私は、悪いことをしたおほえは、ないんだけど口もきいてくれないし、私の悪口を仲よしだった人に言つて、私を仲間はずれにしちやうの。どうしよう。何で怒つてゐるかわからないし……。

とこんな相談でした。私は、どう返事を書いたら良いかわからなかつたので、母に聞いてみたら「あまり気にしないで、他の人と仲よくしていれば……?」と言つたのでした。日記にそう書いてあげたら、一、二週間ぐらいたつたら相手から日記がきました。中を見ると……「Aさんが「仲間はすれにしてごめんね!」と言つて来たの、どうもありがたう!」と、書いてあつたのです。私は、うれしくて、さすが人生の先輩だなあ!と思つたのです。



修学旅行の思い出



自然

三年E組 池田昌代

青く澄みきった深い湖
その上を遊覧船が歩く
トボトボと ひとりきりで……
湖面に あめんば、みいつけた

新しい緑、新芽の木々
その中をバスが散歩する
ソロソロ五人もそろって……
木の上の小鳥の巣を みいつけた

茶色の肌の 昭和新山
その横を 雲が遠足している
一つの集まりになって……
雲の中に かみなり小僧を みいつけた

湖の中の小さな石……
緑の木の一枚の葉……
昭和新山を横切る雲……

バスの中から見る自然
まっすぐにのびた木
美しかった
楽しかった

どんな小さなところにも
小さな自然は生きている
わたしの大好きな自然は……

修学旅行で、みいつけた
小さな小さな自然を……
あめんぼうも 小鳥も かみなり小僧も
みつけたよ
修学旅行で みいつけた

修学旅行実行委員より

三年E組 桶田幸嗣

大きな自然
偉大な自然
生物に生命を与えた自然
美しい自然
豊かな自然
人々の目を休ませてくれる自然
修学旅行で行ったところは
観光地だ
造られたところかもしれない
でも
自然は あったはずですが
どんな小さなところにも

つい先日まで雪の中をころげまわって
いたかと思っているうちに、もう春も半
ばを過ぎてしまった。三年生となって一
カ月以上もたち、高校受験まで一年もな
くなって来た。三年生としての心構えも
だいたい定まってこなければいけない。
そんな中三年間行事のうち、最も大き
なものに修学旅行がある。

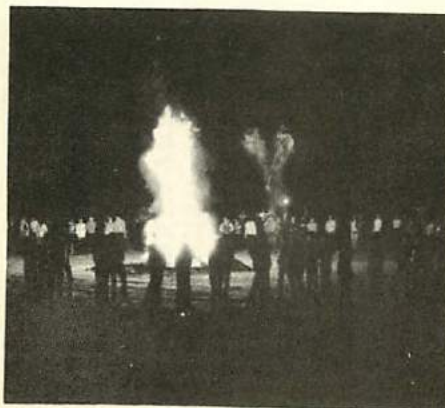
49年修学旅行日程

5月19日(日)

- 9:00 函館駅集合・人員確認・乗車開始
- 9:40 函館駅発・座席確認↑
- 12:23 東室蘭着・バスに乗車・人員確認
- 12:40 東室蘭発
- 13:00 青少年科学館着
- 14:20 青少年科学館発
- 14:30 測量山着・小林憩
- 14:40 測量山発
- 15:30 地獄谷着・記念写真・スケッチ
- 16:00 地獄谷発・人員確認
- 16:15 登別臨海観光ホテル着
- 19:30 キャンプ・ファイヤー
学習のまとめ

5月21日(火)

- 8:00 ホテル発
- 9:00 道立図書館着
- 9:50 開拓記念館着・記念写真・
スケッチ
- 11:30 札幌ビール工場着
- 13:10 円山動物園着・昼食
- 15:00 北海道庁着
- 16:00 NHK TV局着
- 18:00 朝里川グランドホテル着
- 19:45 学級の計画で行動
- 21:00 学習のまとめ



それは文字通り学問を修める旅行であると先生もおっしゃっていらしたが、ほくら生徒の間では、テストだ試験だと追いまくられる中三生活の中で、最も楽しみ、遊ぶ時間ととられているのがまあれではない。ほく自身もそのように考えがちではあるが、やはり単に楽しんで遊んでくるといことだけでは終りたくなかつた。少しでもよいから、何か満足できる収穫を手にしたかった。

そして修学旅行の委員として、みんなと長い間、そんな気持ちをもつて準備にとりくんで来た。今、旅行から帰って来て、自分が手にしたものは何であつたかをふりかえって確かめている。

5月20日(月)

- 8:00 ホテル発
- 8:15 四方嶺山麓駅・熊牧場・スケッチ
- 11:00 昭和新山着・記念写真
- 11:40 昭和新山発
- 12:00 洞爺湖畔着・昼食・スケッチ
- 15:40 中山峠着
- 16:50 アイスアリーナ
- 17:15 ホテル札幌会館着
- 19:15 夜間外出・標準服
地下鉄北18条駅→大通公園駅
(90分) 地下街散策
- 20:55 ホテル着

5月22日(水)

- 9:30 ホテル発
- 10:10 祝津水族館着・記念写真
スケッチ
希望者は、にしん御殿を見学・昼食
- 12:30 祝津水族館発
- 13:00 小樽駅着
- 13:41 小樽駅発
- 18:36 五稜郭駅着・人員確認

キャンファイヤー

三年B組 中 村 淳 子

何よりも強く胸を打たれた思い出は、第一日目に行なったキャンファイヤーである。初めてのことで、不安と興奮が私の胸を躍らせた。始めたのは七時半ころで、大きな木のある広場で行なわれた。登別の町がよく見えるところで、とてもきれいだった。(このままここにずっといたいなあ)と思った。

火がついた。拍手の音がする。パチパチ、パチと木が燃え始めた。炎が高く上がりだした。私はじっとそれを見つづけていた。何ともことばで言い表わせない気持ちだった。だんだん暗くなつていくと、炎が明るく熱く感じられて、火のもつ美しさを強く感じた。みんなで火を囲み、あの素晴らしい愛をもう一度、戦争を知らない子どもたちを歌った。その時私は初めて「私は若者なんだ。私は今青春のただ中にいるのだ」と感じた。

短歌

三年D組 原 田 かおり

ながやかに風にゆられる夜空にて

キャンファイヤー赤々と燃ゆ

思ひ出の「マ」

桶 田 幸 嗣

「ガタン、ガタン」、ここは行きの車中である。函館駅へ集合し、東室蘭へ向かっている。ぼくたちのクラスは最後の五クラス目であるから、一りよう貸し切りの状態で広々として、行きも帰りも楽な車中であつた。ぼくのいた班は、五人編成で向かいあつて全員がすわることは出来なかつたが、互いの顔が見える範囲にすわつた。そう、ものの一時間も行つたころ「あれ、やるか!!」とバググからあれなる物を取り出し、お湯をそそいで三分間とやり始めた。半年以上も前から友だちと、カップヌードルを旅行中に食べることを目的としていたのだった。今考えてみると重い水筒をわざわざ持つていって、よい思い出とはなつたが、バカだった。汽車の中は、ぼくらの目的をはたす満足感でいっぱいであつた。

そんなうちに、東室蘭駅へ着き、おい出されるように汽車をおり、バスが待つ所まで歩いた。人はなぜか、初対面というのがわくわくする。そうガイドさんや運転手の人たちと初対面だ。初対面というのは、なぜか人の顔がよく見えるのだら………。あとから先生が話した、だいぶテランだったとか。でもやつぱり、

ただのお姉さんくらいにしか見えなかつた、ぼくの目には。

まずは青少年科学館へ着いた。TVタレントになつたり、足が長くなつたり、自分のしやれこうべを見たりとおもしろかつた。それから測量山へ行くはずであつたが、なんだか都合が悪いそうで、頂上までは行けなかつた。そして地獄谷へ着いた。いおうの臭いが鼻をつく。湯けむりはもうもうと、谷底を見ているとすいこまれそうな所だ。聞く話によると、近くの温泉にこの谷で自殺した女の人の髪の毛がたばになつて流れてきたとか。恐ろしいことだ。死んだ本人にとつてこの谷は天国だった、ということは今この世はなんでしょう。ここではまず記念撮影をおこなつた。マニアの友人とぼくは写真屋の名機らしき物をジックリ見できた。そしていつものとおり、バカにして自己満足した。これはぼくらがよくやる、悪いくせなのだった。谷の下におりていくと、地面にお湯が流れている。そう思つて指をつつこんだら熱湯だった。あのときは大声あげたのです。と、一日目の見学は終り、登別臨海ホテルへと向かつた。この旅館では、われらA班とB班とが合同することになった。合計10人だったのに、ちよつとせまつたような気がしないでもなかつた。せめてあと畳二枚くらいこの面積があれば楽



旅行を終えて

○そして私達の結論は

桶田 幸嗣

しそのしずけさも、スリッパが頭上をかすり、落下した音と、下品な笑い声ですっかりかきけされてしまった。隣の部屋の連中が、ぼくらの室の入り口を開けて、スリッパを力のかぎり投げつけ、ゲラゲラゲラと笑って逃げ去っていったのだ。あのときのことは、今でもはっきりおぼえているのだ。こら、これを読んだのかアホ。そしてあとで先生にしかられてんの、バカだなあ、ねえ高橋君、ハハッ言っちゃった、しらねえぞ。

汽車はまっすぐ函館へと向かった。駅で早急に手に入れたカップヌードルの味も、なぜか出発したときとは違うのであった。友達と、のこり少ない時間になごりを感じて出ない力を、むりして出してさおいだ。

もう、すっかり疲れきった者、まだまだ旅を続けたそうな者、人はそれぞれにいつもとはちよつと異つた状態の中で、思つただろう、感じとつただろう。なにか手にした者のような顔を、みんなしているように見えないでもなかった。半分ふざけて楽しくやってきたばかりも、収穫があつた。有名な所を数々見て回り、見聞を深めるのもだいじであつたろう。でも、そんなことは、ぼくが得たものに

くらべれば、物の数ではないのだ。ぼくにとつて大きな収穫とは、みんなと、友達と、同じ生活を共にすごしたことによつて、ぼくらの間になにかが出てきたといふことである。今は、それをうまく言うほどの力はないけれど、今まで、ぼくらに欠けていたものが、旅行中にみつかったと思う。それは、これから残り少ない中学校生活に大きな影響を及ぼすにほかならないだろう。そう信じたい。

それは絵ハガキや写真と共に、すえ永く、ずつとぼくらに残つていてほしいと思ふ。最後に、ぼくらの修学旅行が、その目的を果せたのも、ガイドさん、運転手さん、旅館の人々、キャンプファイヤーの雑用をやってくれた方々、近畿日本ツーリストのみなさんのおかげ、そして何より一番、ぼくらのために苦勞してくださつた諸先生のおかげである。ここで再度お礼をのべて、文の終りとしたい。

三年B組 今村 曜子

……しかし、そんな旅の風景などすくなく忘れてしまふでしょう。でも、私はこの旅行で新しいものを見つけたかったです。それはみんなとみんなの心のふれあい。それは団体行動のむずかしさに多少のまさはあつたけれども、私は学校生活では知ることのできなかつたものを発見できたと思います。みんなの心の一面を互いに知り合うことによつて、私自身も含めて前進することができたのではないでしょう。か……。

はなむけのことば

努力のすすめ

八反田 稔

俗に才能があるとかないとかよく耳にする言葉である。一体この才能とは何であるのか。思うに、人皆生まれながらにして持つ才能がある。しかしこの才能は可能性であつて、現実には具体化されなければ無に等しい。しかもこれは具現化されなければその限界がどこなのかも皆目見当がつかないものである。ところで人は社会に生きることにより、その環境要素からくる必然的な働きかけ、例えば目先の利害得失による働きかけや個々の人間関係の影響による働きかけ等、諸諸の要素が錯綜して働きかけることによつてその可能性が具現化してくるのだ。だがどの場合でも、本人自身が働きかけようとする確固たる意志と意欲の努力がなければその可能性は決してより開発されることはないのだ。

君達の持つ可能性は計り知れないものがあるのだ。そして誰もその限界を知らない。君達自身も。だからこそ、その限界がどこにあるのかそれぞれ自分の限界に挑戦して見ようではないか。

勿論人によつて開発される周期は違う。ある人は初め偉駄天の如く、そしてしりすほみになる人もあるだろう。また、ある人は、初めゆっくり後になる程調子をあげる人もいるだろう。

昔からいう、「大器は晩成す」。これは物理的にもそんなのだ。慣性のモーメントを考えて見よ。「大きな車輪はまわりがおそい。しかしまわりだしたらなかなか」とまらない」。

君達は「大きな車輪」になつて欲しい。その大きな車輪をまわすべく弛まぬ努力をして欲しい。「丈夫で長持ち、馬力でハッスル」発展を祈るや切。

元気で頑張れ！

酒田 文雄

卒業生にひつひと

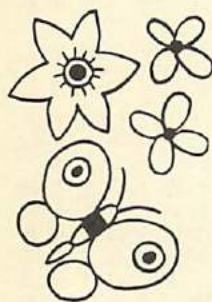
岡本 守

「百里の道は九十里が半ば」ということわざがある。

百里の道の半分は五十里だが、そこで気を許しては目標の達成はむずかしい。九十里行つてはじめて半分来たのだ、あと十里を半分の五十里を行くような気持ちで油断なく、力を入れて歩かなければならないという意味であるが、

義務教育を終えて新しい世界へと旅立つ君達は、長い道を歩みはじめたばかりである。これまでの道は、多くの人々の保護のもとに歩んできた道、これからは自分がどこまでできるかを、自分でえらべるのです。……………

良き友、よき趣味をもち、健康でねばり強く、自分の目標に向つて、正しく歩み続けて行つてもらいたいものです。



『卒業してから……』

永田裕三

四月に転任してきて、いきなり担当したのが君達三年生だった。過去にも三年生を担当したことはあるが、新しい環境で、一面識もない三年生を担当するのは初めてなのでずいぶん緊張したものです。何かをうかがうような目でみつめていた彼女、何か話しかけたげな彼女、俺は英語なんか勉強しないぞといったげな態度の彼女……等に囲まれての授業は私には大変な圧力だった。そしてようやく気軽に冗談口をきけるようになった今、君達と一緒に作り上げて来たドラマの幕が降りようとしている。

ドラマが完結するにあたって私なりの感想を述べてみよう。内容はどこの中学生が演じてても大差のないものだったと思う。その点では、全員が無事に自分のつとめを果たしたと言えるだろう。しかし、いつも私の心に残ったことがある。それは君達のドラマには感動がないということだ。君達はプロフェッショナルではないのだから、意図的に作られたもので演技をする必要はないが、もつと自分のつとめをわきまえて、精魂をこめて自分のつとめを果たす努力を怠ってはいなかっただろうか。君達が精一杯取り組んだ演技だったらもつと多くの感動や共鳴があったのではなからうか。一つの演技が感動を呼び、それに共鳴したもう一つの演技が感動と共鳴を呼ぶ。この真面目な連鎖反応が君達のドラマに感動をもたらす大切な要素だったはずだ。何故なら君達のドラマの主題は『誠実・協調・真理探求』という校訓に他ならなかったのだから。『人生はドラマである。』といわれます。感動がないよりあった方が良いに決ってます。自分のつとめをわきまえて、自分のつとめを精一杯やり遂げるまじめさとたくましさを持って、

そして人の演技に感動し共鳴できる心の豊かさを持って、卒業してから、もつと充実した自分自身の、たった一度限りのドラマづくりに努力して欲しいな……。

あわてふ・あせりふ・あやうめ

田中恒也

卒業——それは自分の意志で人生へスタートする、いやスタートしなければならないことを意味する。よく人生を航海にたとえていう。今までのきみたちはすくなくとも良港に停泊、あるいは港内を動いては過ぎない。それがいいいよ外洋にむかって船出するのだ。

切に平穩無事な航海であるよう祈りたいがそれで、終わるはずがないと考えるべきが至当。エンジントラブル・雨・嵐・嵐・氷等おし寄せる苦難は枚挙にいとまがない。しかし神のみが知る、人間は努力するのみである。

どんなときもあわてず・あせらず・あきらめず一歩、一歩着実に力強く前進してほしい。場合によっては後進、転進ももちろん必要である。

きみたちには若さがある。若さとは苦難をも楽しみに変換させ得る力を持つ最高のエネルギーである。貴重なこの若さをだいじにしながら、何事にも一生けん命努力する人間になつてほしい。健闘を祈る。



ひとつと

館 洞 光 宏

昭和四十七年四月、入学式にならんだ緊張した顔が思い出される。あれから三年の歳月がすぎた。早いものだ。さていよいよ卒業、いろいろなことがあった。しかしあの頃の君達と今の君達のひとりひとりを重ね合わせてみると、心身ともに成長したなあという実感がわいてくる。これからはそれぞれ自分の選んだ人生を歩まねばならない。勉学を続ける人。就職をする人。後悔しない道を選択してほしいものだ。

あと二十五年で二十一世紀をむかえる、きたるべき世紀が輝かしいものかどうかは誰にもわからない、さまざまなことを人は言う、しかしそのどれもが予想や推測にしかすぎない。たしかなことは確実に一日一日が過去へと消えさり新しい世紀にむかって進行中だということだけだ。先生はこの新しい世紀をみることはまず無理だろうが、君達はその可能性は充分にある。一人一人が何をなすべきか。巨視的にみることも結構だが、一人の人間としての私はどのように対処し生きているべきかということを考えることがもっともたいせつなことになるのではないか。

まあ三年間ぶじに成長してきたと思う。しかし未完成だ。一生かかっても人間は完成などあり得ないが、それにむかって進んでいくことの意義は大きい。人生にいや自分に甘えてはいけない。『内剛外柔』という言葉がある意味はおよそわかると思う。

さいごに一つ『十分前主義』ということ。つまり物事に対処する態度として余裕をもてということになる。時間だけの問題ではなくて、すべてのことに当る態度・心構えのこととしてうけとめてほしい。常に前向きにひたむきで誠実な生き方。堅実に二歩一歩足もとをふみしめて進んでほしい。

本校十二回生の多幸と健康を祈る。

心の糸を……………

島 貫 譲

★私はかつて長女の学んだ東高より頼まれ、巣立つにあたっての親の心を日頃考えているとつり文章にあらわしたことがある。

それは『東の森』という言葉で表現されている東高の自由な環境の中で、見事な（？）娘に成長させてくれた、東高の教師に対して、そして学友に対するいつわらない親としての感謝のことばであった。

何のこだわりもなく、秘密を持たず、学校にあったすべてのことを瞳を輝かせて語るようになった娘。親としてこれほど嬉しいことはなかった。数多くの教え子を送ってきた私が、卒業にあたって、教師としてではなく親として、そして、家庭においても時には厳しい妹をしいた教師のにおいが身にしみている私に『親というもの』を改めて私自身に、巣立つ涙を浮かべている娘の顔が教えてくれたのである。

★三年の諸君ノ親というものはそのような存在であることを忘れないでほしい。時には君達を叱ることもあろう。口やかましき人生のルールを説くこともあろう。その時、その裏にある親の心をくみとれる青年になってほしい。くみとれない失格人間にならないように。

★どのように時代の流れが変わっても、親と子の心の糸は少しも変わらないうし、また変わってはいけないと私は信ずる。

★大きな夢もよし、他人にまけて泣くこともよし、その経験をつむ度ごとに親の心が、どの位自分の支えになるかがわかってくるだろう。親も心の支えになる決意を改めて見つめる時であらう。

★心に陰をもたず、ひねくれたこじんまりとした大人にならず、すんだ瞳を持った青年の群れを今後に期待したい。

思い出の授業

教科の先生と生徒とのある目



館洞先生



岡本先生



進士先生



八反田先生



川原先生



酒田先生



本堂先生



田中先生



泉先生



永田先生

3 + A

19 + 19 + 39 + ...

ある所に・・・男と女が19人ずついました。さて合計で何人でしょうか？はい、あなた、なに？38人ですって、残念でした。大はすれです。正解は39人でした。なぜでしょうか？我クラスの女子が噂するかの有名な北京人の岡本守大先生様が存在していられしからです。さてエルビスも新御三家もカブトをぬぐ。ハンサムな19人の男性は、特有のニックネームを授けられ、時には野地坊主になり、時には聖母マリファさんになるのです。エー、ではここでお茶を一服。みなさんお待ちどうさまでした。女子の出番であります。男子が恐れをなす程の美貌を持ち、大和撫子の子孫を思わせるしとやかさ。こんな男の女が、一クラスになります。さてみなさんはどんなクラスになるか。お思いでしょうか。

休み時間ーみなさんなら三年生だから勉強してと思うでしょう。しかし、港祭りの延長かと思われくるくらいのにぎや

かさ。勉強してる人？そりゃ一人くらいはいますよ。でも、はかどってるのかな。そんな人の姿を見て、みんなは「あいつ、東大ねらってるんだべ」と感心しているのです。これだからA組は先生にもみはなされるのでしょね。ところが、ある先生は「A組は優秀だ」と言ってくれます。先生、大大好き。でも根はまじめで勉強好きであります。その証拠に、数学の定理や英語の単語のスペルも、コンピュータのような速さで口からポロリとこぼれるのです。まあ、その答が正解だろうがまちがいだろうが本人は別に気にしてはいないのです。最後に、A組は「水」なのです。男子はアルカリ性、女子は酸性だから、これをイオン式であらわすと、 $H^+OH^- \rightarrow H_2O$ になるのです。だからいつもA組は中和しているのです。学があるなア…………。

僕は卒業しますが、それについて何か質問ありませんか。

浅川 雄二

おれは、エマニエル男爵だク

井川 幸三

おれは警部マクロード (松井へつづく)

池田 克也

人生が二度あれば (上島へつづく)

石原 静勝

悪先輩から一言 / あ

一戸 裕之

これから俺の第二の人生が始まる。小野田さんにつづけ /

上島 忍

ボンボンにはなるな (だれとはいいいません)

鎌田 了

白衣を着たメガネエロノクタバレ (〇〇さんとはいいいません)

河本富士也

卒業します。サヨウナラ

木村 頼義

悪になってもボンボンになるな (だれとはいいいません)

小玉 範夫

初志貫徹
さようなら / さようなら / さようなら /

菅原 耕一

瀬戸 昭治

富谷 博行

級 学 業 卒

今度は君達が苦しんでください。では、さようなら

西村 晃

光陰矢のごとし、三年間はあっというまだった。

野田 勝彦

おれは、刑事コロンボだノ(吉岡へつづく)

松井 伸一

ゲロンバ

山崎 俊幸

男は黙って命、預けます……(ネズミ谷茂へ)

横山 昭彦

おれは、鬼警部アイアンサイドだノ(池田にもどる)

吉岡 努



「この闇のむこうに、輝く明日がある」
ってきめてみたけれど……ノ

石川 安美

身も心もおとなになりました……拓郎
こんな私を早くみて

伊藤 妙子

私は15才 後2か月でヒデキの花嫁さん
にノヒデキ感激ノ

浦口 彰子

アッ、あれは何だ、円盤だ月光仮面だ、
いや、ちがう、しらけ鳥だノ

小笠原洋子

「とても楽しい中学校生活でした。」な
んて、ほんの冗談

加藤 光江

「はたるの光?」目から鼻水 鼻から涙?
○○ちゃん、さよなら、泣いちゃだめよ、
アラ鼻水?

金子 裕子

3月現在。コロンボさん〇。早くTVに
come back

金谷 幸子

身も心もバラバラ、だれか助けてくれる
かしら?それは、誰でしょうノ

国立 尊子

工藤 裕子

ポール・M、

チューリップ、かぐや姫?
ああ青春

熊谷 周子

クレオパトラか、つる姫か、ムム、まさ
こ姫か、ムム

小島 正子

書くことなんてないのに、強制的に書か
せるなんて、これが三年間の思い出にな
っちゃった。

小松 睦子

3月現在。マクロードさん、コロンボさ
んに負けないで

坂井 英子

さよなら、中学校時代ノ もうお別れね。
桜岡 敬子

滝口由美子

苦しみの後には楽しみが来る。ってホン
ト……。ネ、ルネ。

高節様、やっと貴方のもとへ……?

どうせなら、原稿用紙10枚くらいの論文
を書きたかったのに……。

網森公仁子

「私の一生は埋められた希望のお墓」な
ーんちゃって

富田 詩子

告白します。実は、私がロバート・レッ
ドフォードの生みの親ですの……。

長川 洋子



三・Bとは、どんなクラスだろう。比較的、勉強ができる。みんな、よくままりを守らない。

次に、三・Bには、どんな奴がいるだろう。

黒板に穴をあけた奴。まくらを投げてガラスをわった奴。ヘルメットみたいな頭の奴。目は、はなれている奴。よく大声で笑った奴。北の湖みたいな奴。コンタクトレンズを落として、まっさおになった奴。いつも腕をねじられていた奴。などなど。

××××

××××

続いて、八反田といった人物について。彼は、知性と教養にあふれた人で、電子計算機を思わせる頭脳の持ち主である。それに、男性的な体つき、うっとり聞きはれる美声。二十才を思わせる若々しい行動力。とにかく、これはどの偉大な人物が学校の教師でおわるのは、もったいない。といった冗談はこれぐらいにして。

さて、三・Bは、結局とういう存在なんでしょう。大して異常な人も、気分の悪くなるような顔の人もいないので、他に書をおよぼさない、安全なクラスでしょう。また、みんなのいい（悪くない）え、大して頭の回転の速くない（人ばかりだし、先生はりっぱだし（大してそう思わないが）、あんがい、いいクラスかもしれない。でも火遊びはするし、黒板には穴をあけるし、教室内は汚れているから、思ったよりも悪いクラスなのかもしれない。結論……要するに三・Bというクラスは、いいクラスのような、悪いクラスのような、変なクラスである。

※

※

若者の限らない可能性の実現のために

浅市 悦朗
おたがいに目標めざしてがんばろう！

山本 慎一

感動と感激は、やはり違うものでしょうか。
玉木 一成

熊本が早く人間になれるように！

襟袈の春は、何もない春です。
加藤 智昭

断して行なえば鬼神も避く
板倉 満

その誠、よろず世におよぶければなり
福島 充

失敗にくじけぬことが大切なんです
横浜 治

読書は多めに、テレビは控えめに！
熊本 宣彦

古崎 毅

上田 幸夫

せまい日本 そんなにいそいでどこへ行
坂本 裕一

遊び第一、勉強第二
野村 透

健康第一
宮川 豊

某先輩曰く、中学生必修金言「雄弁は銀、沈黙は金、さばりは正座」
垣坂 義

函館の田家町こそ悲しけれ我ら卒業矢車の花
小石 信昭

輝かしい明日へ

失敗でくじけぬことこそ大切なんです

平野 昇
村上 真章



いつも 夢を 忘れないで下さいノ

相沢めぐみ

ふけた若いお方のために 南無妙法蓮華

經 青山田鶴子

人間は、自分がペンと化する時、最大の
喜びにひたるのだノ

今村 曜子

回る回るよ 地球はメリーゴーランド

井上 初美

エート まぁ 平均して楽しい三年間で
した

加藤 潔美

You'll be always in my heart

加藤 珠貴

私は あなたをいつまでも思い続けるの
です

斎藤由美子

・カケラ・カケラ・ガラスの破片思い出さん

三比 幸恵

あつというまに青春の中の三年間を終え
たノ

志草みゆき

過去をふり返り、現代に生き 未来へゴ
ーノ

島田 玲子

あなたはあなたのままで変わらずにいて
下さい。そのままで

島津 房世

卒業したら ALPHE

五 白井 道子

I'll never forget... You.

五 寺本 美幸

GOOD-BY MY LOVE/ M.T

赤 富山美枝子

やれば できるサ これが 青春...ノ

中村 淳子

私、人生で高校時代が一番楽しいと思
うのノ

番重よしみ

たまには過去を思い出すこともいいこ
とです

福士 美子

あつというまに..... 楽しさが消えて
ゆくノ

卷口 泉

カラ カラ カラ さようなら.....

若松 玲子

カラ カラ カラ さようなら.....

若松 玲子



あゝあ 青春

青春ノートの三ページ

そこに

空白の部分はないか。

雪どけとともに

閉じてしまうそれに

書損じていることはないか……

3年C組ってところは、なんのとりえもなく、授業中はシラケッばなしで、それでも自習時間は最高にうるさくて、スケベな話ばかりして、勉強なんぞ無関心を通りこして全く忘れちゃってるから、我が担任田中先生サマも悲嘆にくれるのであります。二C時代から、体育祭にしても合唱コンクールにしても運が悪かったとゆうか（果してそれだけだったろうか）実力がなかったとゆうか（これが一番明確）とにかく大きな顔なんてとてもじゃありませんが、していられなかったのです。それでもただの一度だけ球技大会のバレーボールで男子が「優勝」

してしまったのです。（女子は……）いやアあの時は実にわたくし感激いたしましたね。決勝戦を目前に「これでやっと2位の賞状がもらえる」とみんな涙を流してたのに、それが「優勝」したんだから、この時の喜びようといったら、天地がひっくり返って、地球が月のまわりをまわってもおさまらなかつたみたいです。あの時はやはり先生サマも鼻が高かつたでしょうな。ハッハッハ（皆様もごいっしょにどうぞ、ン？てめえ笑えってんだよ）

3C38人。一番たよりになる、一番仲のよかつた仲間達。これから皆それぞれ道を歩んでいくのです。

お父さんみたいにやさしくて暖かくて、そしておつかない田中先生、どうもありがとうございました。

ゆつくり歩こう、HUMAN LIFE

相田 雄二

僕ほど 現代を変える人間はいないだろう 赤塚 敦仁

勉強やめて原始に帰ろうク（原始キャンベーン） 浅井 哲也

今日の日を大切に 今日と明日は DIFFERENT

10年後 あの人には アカゴがいるでしょう 加藤 芳和

今 遠い宇宙を荒々しく越えて行く 斎藤 元彦

THE END

15才の別れ 窓の外にはなごり雪 佐々木 徹

明日できることは 今日するナク 佐々木利哉

だれも生涯を予測することはできないだろう 佐藤 晃

長いようで長かつた三年間 ゴクーン？ 佐藤 保

なるようにしかならない 人生はク 梶谷 直樹

後輩よノ修行をつめノそれが人間ぞノ 竹田 育生

西岡 元司

級 学 業 卒

ゆうずうのきかぬ自由に カンバイク

林 完治

アハハハ ウフハハ フーッ

深山 美樹

実感ク 栄光なるものは 過ぎ去れど消えず

福田 政夫

私は15。私はライダー。私はウルトラマ

ン ハッハ

真崎 一嘉

自分で 作るブルーインバースできるか

茂筑 裕司

な? 苦あれば楽あり 何かご質問ありません

大和 稔

か? 愛するに 恋の破れは 春きたる なん

だこりゃ?

若林 邦明



命短かし恋せよオカメ ネク金丸さん

飯淵 道子

気持ちが天国 美女 ばんざいク

(じろう)

石黒万利子

私 有斗のスケバンになるんだク

柏山 好子

命短し恋せよガチャメ ネック西村さん

金丸 孝子

アハハ実感 卒業しても学校 目の前

(じろう)

金ヶ崎竿子

もう お別れ みんなと はなれたくな

斎藤 輝美

いつまでもいつまでも別れないでね

ネック 晶子ちゃん

須藤 智子

3Cは私にとってきちがい集団だった

(じろう)

高島 清美

3C消滅 五稜中にも平和が訪れます

万才ク

武村 祐子

最後にたよれるのは やっぱり自分一人

でした 田畑 瑞恵

十年後も二十年後も友達でいようね

ネック おトモ

中村 晶子

いつまでも続く 苦しみの壁

中村 貴子

命短し恋せよワカメ ネック 保科さん

西村佳津子

命短し恋せよジトメ ネック 飯淵さん

保科 文子

I don't Want Coorort

松田久美子

もう卒業 ピンクのももひきと別れな

きゃク

松本 和枝

春夏秋冬東西南北現在未来………

嗚呼疲れた

八日市和子

私はクイーン 売れっ子ってつらいわ

ロジャーク

吉井 暢子

私はこれから清纯派の女の子になるの

ネック じろうク

和田 弘子



今、我々の3年間の生活が終わろうとしている。この3年間、我々は何をしてきたのだろうか。ただよく然と生きてきたのではないだろうか。我々が3年間、何かをしたあかしにこのエピソードを残そう。

3年D組は、クラスがえがあつてからの2年間全員協力し合ってきた。

また、これからの残り少ない生活をも、協力し合つて生きていくだろう。

皆、この中学校生活が人生の中での思い出の一つとなるだろう。

この3年間にいろいろなことがあつた。

何かがあつたということは、自分自身の道を歩いてきたということになる。そして我々はその道をあゆむべく高校生活に入ろうとしている。

そして新しい友もできるであらう。しかし我々は中学校での経験をいかして生きなければならない。

ノアが箱船を造つたのは洪水がくる前の事だ。

まもなくやって来る春に希望をもとう

人生流行ステップ そして七転八起

花を作るのは自然、花輪を作るのは芸術

自分でしたことは、自分で責任をもとう

今日というこの時を大切に

Good-by my friend

人生はわすれたところにやって来る。

幸司の家では、父帰る

振り返ったとき、それはもう過去なんだ

我々の持つ心を大事にして生きよう

My study has no end

人の人生は三階の詩、一階かなければ完成しない

友達こそ宝なり

ジョンといっしょに真夜中をつっぱしろう

3月15日、僕も卒業できると日記には書いておこう

わが五稜中学校は永久に不滅である

人生は、マジカル ミステリー ツアー

五稜中学校での友情を忘れずに!

少年老い易く、学成難し 僕がいはるよ

時の流れははいけど、あせらず、あわてず

はっ!.....

今日と言う日は二度とこない

塚田 政利

長野 実

林 信平

藤井 一郎

藤森 一郎

古館 隆行

星原 宏一

宮本 明弘

山本 一樹

町田 孝子

小川 洋子

亀沢 智美

高橋 一雄

関本 恒浩

下山 幸司

工藤 嘉幸

工藤 祐一

筈原 丈志

筈原 俊昭

大浜 一夫

大野 義秀

大科 昭

石畑 弘樹

大科 昭

大野 義秀

大科 昭

石畑 弘樹

大科 昭

石畑 弘樹

大科 昭

石畑 弘樹

大科 昭

石畑 弘樹

一歩一歩を確実に

級

WE LOVE SPORTS VAN

菊池 秀美

最後の一言 つるこうさん!!

木村 恵子

学

今日のために生きていと思うてごらん

小林 雅恵

斎藤 真弓

業

自分自身に勝ったとき、それが人生の勝利だと思ふ

嶋田 愼美

一言も出て来ない三年間

高橋いく子

卒

小さな努力の大切さがやっとわかったのでしす

竹橋 信江

別れる切れるは芸者のときに言うことは

土田 朱実

「おつかれさん」「なんのこれからですヨ」

外山恵美子

波ハ碎ケレ当テ 岩ハ碎ルレ当

原田 香織

さようなら 文雄くん!

牧 雅子

はばたけ 未来へ!

山口はるみ





満州教師と七十四のひとみ

昭和47年4月6日 栄光の五稜郭中学

入学以来、2年間悪事の数々を重ね 昭和49年4月、2年E組をおい出された先生にも 見すてられ、私達は、悲嘆の涙にくれていました。そこへ旭中学校より、同じくおい出されて来た満州生まれの特別教師に出合ったのであります。

その教師は暴力教師で、竹ひごをもって生徒を追いかけるのであります。しかしその教師が暴力をふるったところで、よくなる生徒達では ありませんでした。満州教師が暴力をふるえばふるのほど3年E組 のひとみは。ますます輝きを失い、にしんのくさったような目になるのであります。

今、第一の難関である高校入試を目前にして、満州教師は最後の作戦を開始したのであります。

その作戦の結果、満州教師の体力又精神力の限界により三年E組生徒一同は、三年間の学歴を残し、この五稜中学校を引退することを決意致しました。

七十四のひとみは、二ヶずつが単位となつて、方々へ散つていくでしょうが、いつの日かまた、七十四のひとみとなつて、満州教師と語らいを持つことを夢見ているのであります。

この文で僕という人間を判断されたくない。

加川良とビートルズの加川良です。

桶田 幸嗣

卒業です。バイバイ、カンパニーです。

加藤 佳明

下級生よ!! 受験と頭微鏡の関係を、考へよ。

菊地 裕治

人不従一主我歩勉強道大事成息抜持趣味良事

岸本 真

さようなら、みなさん。

久保 義博

俺もやつと人並に卒業できるのか。G・尾崎

坂 正夫

卒業です?.....

佐藤 修

さらば母校よ、さらばハイセイコー

斯波 周司

級 学 業 卒

下級生諸君// 勉強にはげみたまえ

高橋 周司

水島君、今、私はあなたの元へ……

……水島新司

中野 哲宏

生活評論家高田渡先生

バンザーイ

布田 政信

我、今、静かに母校を去る。

林 郁夫

残り少ない時間を有効に、

船岡 亨

人生は常に努力し、正直でなければなら
ない。

保科 清隆

拓郎です/体に気をつけて、

カンパニー

下級生諸君// 自分の道を進みたまえ

森田 浩司

前川です。長崎は今日も雨だった、タイ

タイム

渡部 靖

わたしは「あすなろ」になりたい……

池田 昌代

理想とはかけがいのない夢……

遠藤 忍

青春の扉が今そこに。私達は若いんだ/

鶴姫

小笠原貴代子

生きるとは苦しむことであり戦うこと
だ/

だ/

河又 正子

勉強にねじりはちまきしてうちこむつも
り

り

工藤 布乃

GAROとカレーライスの護ちゃんです。

す。

佐々木千尋

うちでバーボン売ってません。ごめん。

DO YOUR BEST、

白幡可奈美

本当の敵は自分の心の中にある。

杉野奈津美

一に勉強二に勉強のはずだったんだだけ
ど……

ど……

鈴木由紀絵

三年間それは、永遠に消えることのない

思い出

竹下由美子

なぜ未来はきて過去はもう来ないの?

不思議

わたし卒業できるっていう話 ホント?!

思い出いっぱい学校よ さらば/

さらば/ バレーコート/

いつかは訪れる別れに「一粒の涙IIさよ
なら」を

今までにないようなしあわせつくりたい

さようなら みなさん

吉永みどり

福田 敦子

三本 照子

長谷川公子

中川 正子

辻 伸枝

谷 敦子

中川 正子

辻 伸枝

谷 敦子

中川 正子

辻 伸枝

谷 敦子

中川 正子

昭和四十九年度 学校日誌から

四、六 始業式

新任式（島貫・毛間内・春田・

永田先生）

入学式 PTA入会式

対面式

四、八 PTA総会

四、二一 学級委員任命式

検診開始

五、七 家庭訪問週間

五、一 知能検査（一、二年）

五、二〇 修学旅行出発（五、二二帰函）

五、二三 春の遠足

一年 赤川水源池

二年 香雪園

五、二九 留萌港南中との交歓会

六、一〇 第十四回 体育大会

六、一七 開校記念日

六、一八 中体連陸上競技大会

六、二二 生徒総会

七、一七 父母会

七、一八 交通安全教室

七、一九 校外生活委員会

七、二二 中体連八種競技大会

七、二六 第一期 終業式

七、三一 水泳教室開始

八、三一 第二期 始業式

八、三十 校内水泳大会

九、四 「わらび座」鑑賞

九、六 母の会幹事会

九、一 秋の遠足（大沼）

九、一五 水泳道南選手権大会

陸上道南選手権大会

九、二四 全校厚生会

一年 常盤公園

二年 護国神社

三年 元町公会堂周辺

九、二四 母の会給食試食会

九、二七 校内球技大会

九、二八 全市中学校合同音楽会

一〇、一 弁論大会

一〇、一五 文化祭（一、二）

一〇、二六 後期学級委員任命式

一一、二六 生徒会役員演説会

一一、二八 生徒会役員投票日

一二、二 生徒会役員任命式

一二、一二 全市生徒会協議会総会

一二、二六 卒業記念写真撮影

一二、二八 三年父母会（一、二）

校外生活委員会

一二、二〇 全校父母会

一二、二四 第二期終業式

昭和五〇年

一、二〇 第三期始業式

一、二四 冬の遠足（一・二年大沼）

二、七 中体連スキー大会

二、一四 道南放送教育研究大会

二、一八 一年標準学力検査

三、一三 卒業生を送る会

三、一五 第十二回 卒業式

三、二四 修了式

昭和四十九年度 受賞一覽

体育部門

(団体)

◇中体連体操競技大会

◇中体連水泳競技大会

◇中体連スキー競技大会

◇中体連共催大会

○男子ハンドボール

○女子ハンドボール

○野球新人大会

○放送水泳競技大会

男子	三位	・鉄棒	一位	小笠原貴代子	三年
女子	二位	・跳馬	二位	宮崎 淳子	三年
男子	三位	・床	三位	小笠原貴代子	三年
女子	三位	・松田久美子	三年		

(個人)

◇中体連体操競技大会〈男子〉

△個人総合 四位 笠置 俊昭 三年

△種目別

○鉄棒 五位 笠置 俊昭 三年

○跳馬 二位 笠置 俊昭 三年

五位 菊池 裕治 三年

△個人総合 二位 小笠原貴代子 三年

五位 宮崎 淳子 三年

六位 松田久美子 三年

△種目別

◇中体連水泳競技大会

〈男子〉

・一〇〇 M自由 三位 浅市 悦朗 三年

・二〇〇 M自由 四位 相田 雄二 三年

・四〇〇 M自由 五位 相田 雄二 三年

・一五〇〇 M自由 四位 佐藤 正樹 三年

・一〇〇 M平泳 四位 武田 健二 三年

・二〇〇 M平泳 二位 船永 秀人 三年

・一〇〇 M蝶泳 四位 龜谷千代仁 三年

・一〇〇 M背泳 四位 熊本 宣彦 三年

・二〇〇 M背泳 三位 熊本 宣彦 三年

・四〇〇 M R 六位 赤崎・龜谷 三年

・四〇〇 M R 二位 熊本・田原 三年

・五〇〇 M自由 六位 菊池 秀美 三年

・二〇〇 M自由 三位 金丸 孝子 三年

・一〇〇 M自由 四位 嶋田 眞美 三年

・二〇〇 M平泳 三位 斎藤 真弓 三年

△女子

・五〇 M蝶泳 二位 嶋田 眞美 三年

・五〇 M背泳 三位 金丸 孝子 三年

・一〇〇 M背泳 五位 今村 曜子 三年

・二〇〇 M R 四位 金丸 今村 三年

・二〇〇 M R 二位 今村・斎藤 三年

・二〇〇 M R 二位 今村・斎藤 三年

・二〇〇 M R 二位 今村・斎藤 三年

・二〇〇 M R 二位 今村・斎藤 三年

◇中体連陸上競技大会

〈女子〉

・一〇〇 M 二位 福田いずみ 二年

・二〇〇 M 六位 渡辺富美子 二年

・J五〇〇 M R 四位 松井 千晶 三年

・二〇〇 M R 二位 松井・渡辺 三年

・二〇〇 M R 二位 松井・渡辺 三年

◇中体連スキー競技大会

〈男子〉

・二年大回転 五位 武田 健次 三年

・三年大回転 二位 工藤 嘉幸 三年

◇中学校放送水泳競技大会

・四〇〇 M自由 二位 龜谷千代仁 三年

・五〇〇 M自由 二位 龜谷千代仁 三年

・一〇〇 M平泳 四位 佐藤 正樹 三年

・二〇〇 M平泳 四位 田原 一夫 三年

・一〇〇 M背泳 二位 熊本 宣彦 三年

・二〇〇 M背泳 二位 熊本 宣彦 三年

・二〇〇 M背泳 二位 熊本 宣彦 三年

・二〇〇 M背泳 二位 熊本 宣彦 三年

・四〇〇 M R

四位 相田・赤崎
佐藤・龜谷

△女子▽

・一〇〇 M 自由

五位 嶋田 價美 三年

・二〇〇 M 自由

六位 菊地 秀美 三年

・三〇〇 M 自由

六位 金丸 孝子 三年

・四〇〇 M 自由

六位 牧 雅子 三年

・一〇〇 M 平泳

六位 青山田 鶴子 三年

・二〇〇 M 背泳

六位 齋藤 真弓 三年

・三〇〇 M 背泳

五位 今村 曜子 三年

・四〇〇 M R

五位 三比 幸恵 三年

・二〇〇 M 背泳

二位 金丸 孝子 三年

・三〇〇 M R

三位 牧・嶋田 三年

・四〇〇 M R

三位 金丸・今村 三年

・一〇〇 M

五位 松岡 悦子 三年

・J 四〇〇 M R

三位 松井 千晶 三年

◇通信陸上競技大会

・一〇〇 M

五位 松岡 悦子 三年

・J 四〇〇 M R

三位 松井 千晶 三年

・二〇〇 M

二位 渡辺 富美子 二年

・三〇〇 M

三位 福田 いずみ 二年

・四〇〇 M

四位 渡辺 富美子 二年

・五〇〇 M

五位 福田 いずみ 二年

・六〇〇 M

六位 福田 いずみ 二年

◇全道中学校体操競技大会

・個人総合

小笠原貴代子 三年

△種目別

・段違平行棒 二位 小笠原貴代子 三年

文化部門

・跳箱 二位 小笠原貴代子 三年

市立函館図書館第一分館 主催

△読書感想文コンクール

・入選 二年 川辺 公仁子

△父の日・母の日記念感想文・詩公募

・入選△感想文 一年 鈴木 千里

△詩 一年 三浦 千恵子

毎日新聞 主催

△中学生作文コンクール

・道市長会長賞 二年 川辺 公仁子

◇北海道新聞社ほか 主催

△国際連合を記念する中学生の作文コンクール

・第一席 三年 原田 かつり

◇第二十一回函館市小中学校美術展

・優秀賞 一年 三浦 千恵子

・優秀賞 一年 加藤 久典

・優秀賞 一年 蒲生 明宏

・優秀賞 三年 青山田 鶴子

・入選 三年 原田 かつり

三年 深山 美樹

一年 大久保 和章

一年 坂 美喜子

◇赤光社公募展入選 三年 島津 房世

◇函館市・マラボン（ワイリピン）

児童生徒絵交換出品 一年 坂 美喜子

◇第十五回墨心会書道展

・特選墨心会賞 二年 吉野 昌亮

◇第七回青少年科学技術振興作品展

・努力賞「飛ぶカンガル」 一年 井村 千佳子

「改良捕虫網」 一年 大久保 和章

「水がれ防止植木鉢」 一年 高谷 聖一

◇第十八回日本学生科学賞

・優秀賞 岩見沢市長賞

「浮き草の繁殖調べ」 一年 古崎 珠美

・優秀賞 室蘭市長賞

「部屋の温度調べ」 一年 堀井 郁子

金沢 浩
 小林 一美
 猪狩 一則
 泉 良子
 井上 貞興
 大平 元昭
 岡本 守
 川原エイ子
 毛間内茂二
 小西 孝男
 斎藤美都子
 酒田 文雄
 佐々木雄幸
 島貫 譲
 進王 継昭
 田塚 早苗
 館洞 光宏
 玉木 忠
 谷口 幸一
 田中 恒也
 大福 栄一

職員住所録

永田 裕三
 春田むつえ
 八反田 稔
 林 俊夫
 広沢 博正
 深栖 久佳
 本堂 潤悦
 門馬 常
 村田 倅子
 米田 忠夫
 高橋 市雄
 杉浦ミヤ子
 柳沢 美代
 高田 広栄
 木村 照江
 沢村佐次郎
 藤井 光雄
 伊藤 邦子
 早崎 石子

編集後記

葛巻

この本の編集にあたって、先輩の方がいろいろやってくださったので、楽しく、楽な仕事でした。

増田

できてよかったネ、ほんとうによかった。みなさん最後まで読んでネ、ヨシミ

熊谷

この本の編集の仕事を旧役員の方々が、ほとんどやってくれたのでとても楽にできました。

岸田

今年は何もわからないで、ときこいしましたが、来年は、今年の経験をかしてがんばります。

佐伯

一冊の機関誌それは小さいようで太きい物だった。

中村(牧)

何もかも、初めての経験でした。でも来年はこれを生かしてがんばりましょう。

石後岡

やっと終わった。……みんな大事に読んでくれ。

小林

最後の仕事も終わりました。……ホク

岸本

今考えてみればもっと能率的に仕事ができたと思いますけれど……。でも、利益はあったのではないでしょう

杉野

か？
冬休みの座談会、寒い生徒会での編集。原稿をたのまれた人もたいへんだったことと思います。ご協力に感謝いたします。

吉崎

一生懸命やった物です。大切にして下さい。

中村(晶)

中学校最後の大事な……終わったのですねー実感

玉木

編集後記を読んでいますね、君々、とにかく一冊の本が

できました。五稜中生徒六〇〇名で作った本です。大切に読んで下さい……。

指導 玉木先生・猪狩先生

